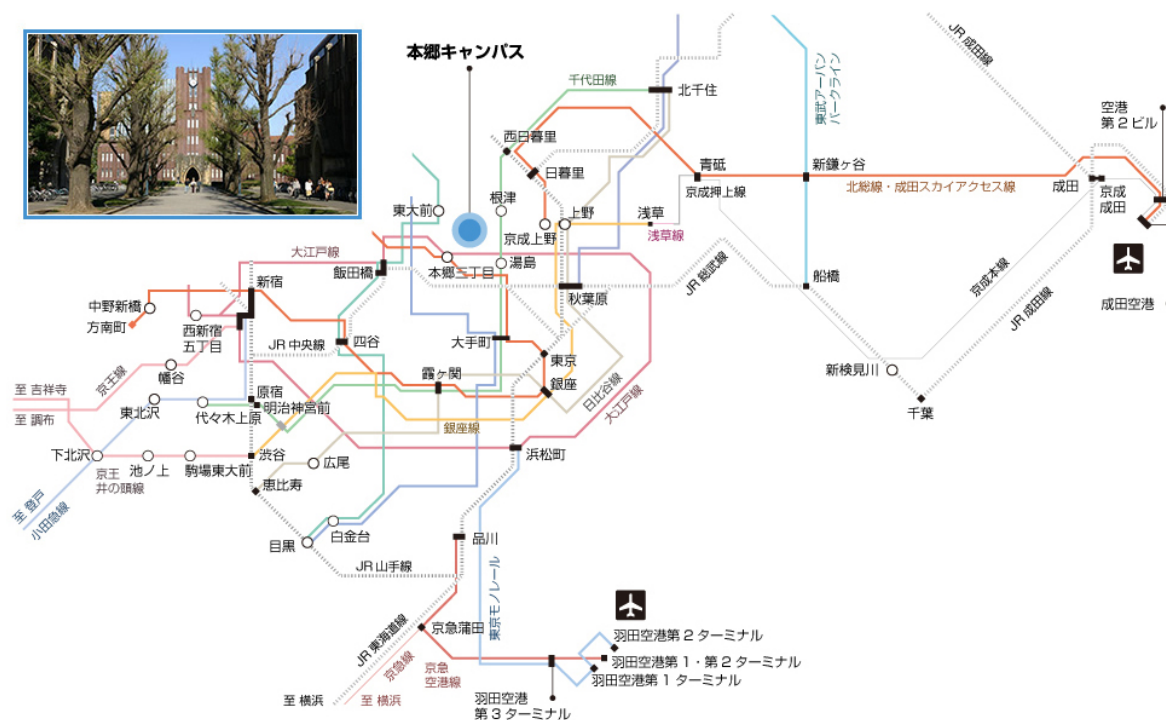


日本社会心理学会
第 66 回大会プログラム

東京大学大学院人文社会系研究科

2025 年 9 月 20 日（土）・21 日（日）

東京大学本郷キャンパス 交通アクセス



各空港からのアクセス

成田空港

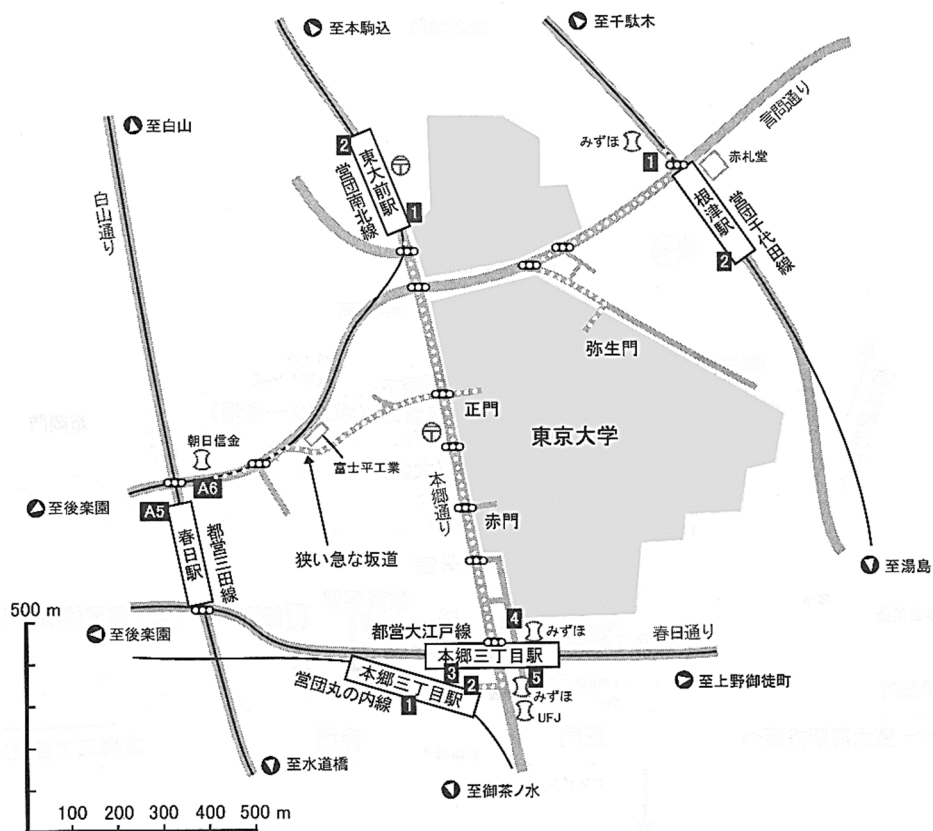
京成成田(京成本線)→青砥(京成押上線)→押上(都営浅草線)
→蔵前(都営大江戸線)→本郷三丁目

羽田空港

羽田空港第3ターミナル(京急空港線)→京急蒲田(京急本線)
→品川(JR 京浜東北線)→東京(東京メトロ丸の内線)→本郷三丁目

羽田空港第3ターミナル(京急空港線・都営浅草線直通)
→三田(都営三田線)→春日(都営三田線)

東京大学本郷キャンパス 周辺地図



最寄り駅からのアクセス

路線	駅名	所要時間(駅出口より)
都営地下鉄 大江戸線	本郷三丁目駅	徒歩10分(正門まで)
東京メトロ 丸ノ内線	本郷三丁目駅	徒歩12分(正門まで)
東京メトロ 南北線	東大前駅	徒歩6分(正門まで)
東京メトロ 千代田線	根津駅	徒歩6分(弥生門まで)
都営地下鉄 三田線	春日駅	徒歩12分(正門まで)

東京大学本郷キャンパスマップ



会場フロア案内

東京大学本郷キャンパス 法文1号館

1階 総合受付

当日参加申込み受付

非会員シンポジスト受付

名札再発行受付

発表変更受付

各種問合せ

1 1 6 大会本部

1 1 4 クローク

1 1 3 口頭発表01, 04, 09, 14, 17

WS01, WS08

2階 2 1 2 口頭発表02, 05, 10, 15, 18

WS02, WS09

2 1 5 ポスター発表01A, 02A, 03A, 04A, 05A

2 1 6 書籍販売・機器展示

2 1 7 休憩室

3階 3 1 2 口頭発表03, 06, 11, 16, 19

WS03, WS10

3 1 5 ポスター発表01B, 02B, 03B, 04B, 05B

3 1 6 書籍販売・機器展示

3 1 7 休憩室

東京大学本郷キャンパス 法文2号館

2階 1 番大教室 総会・シンポジウム・招待講演

口頭発表07, 12

WS04, WS06, WS11

2 番大教室 総会・シンポジウム・招待講演（遠隔会場）

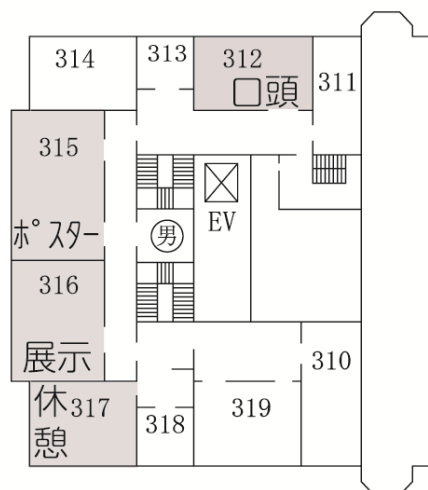
口頭発表08, 13

WS05, WS07, WS12

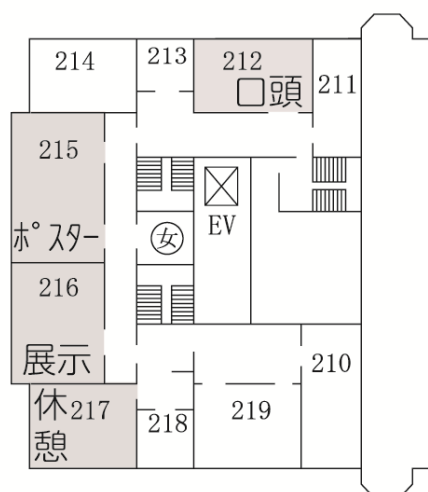
会場フロアマップ

法文 1 号館

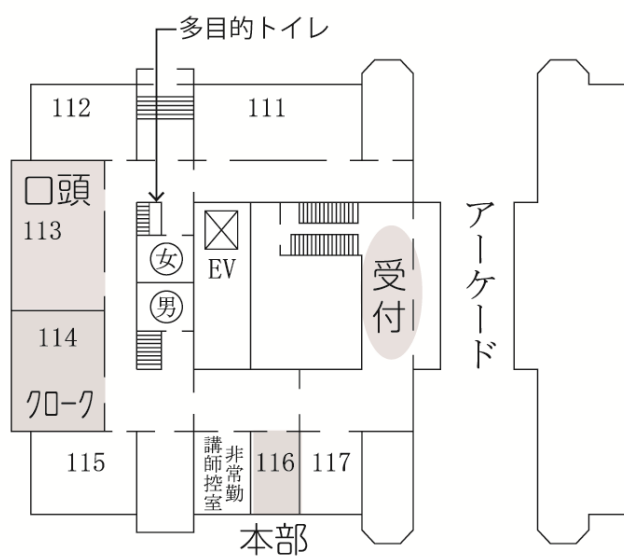
3階



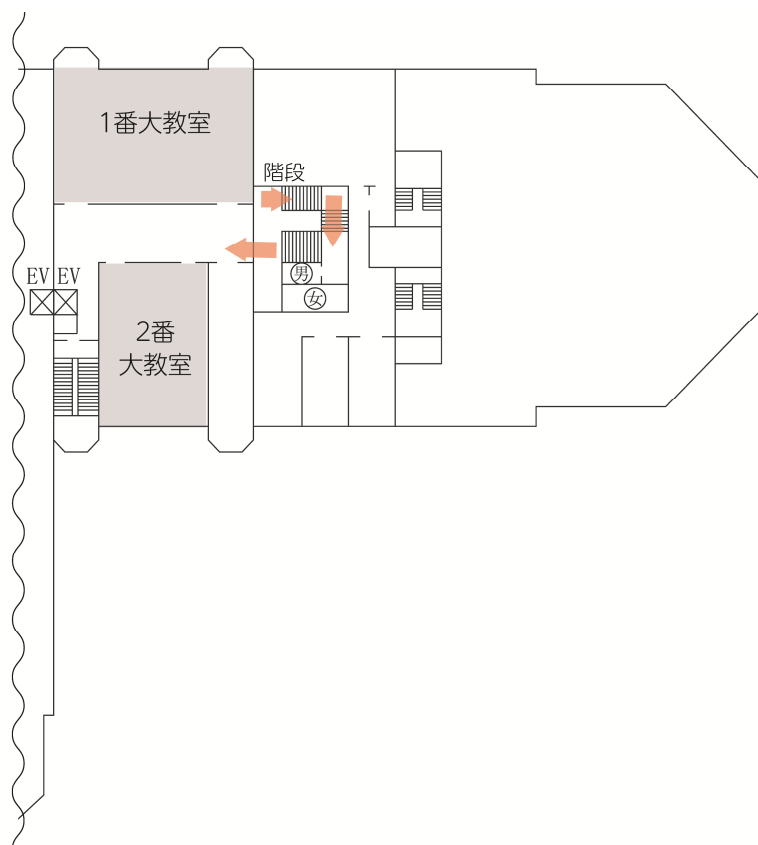
2階



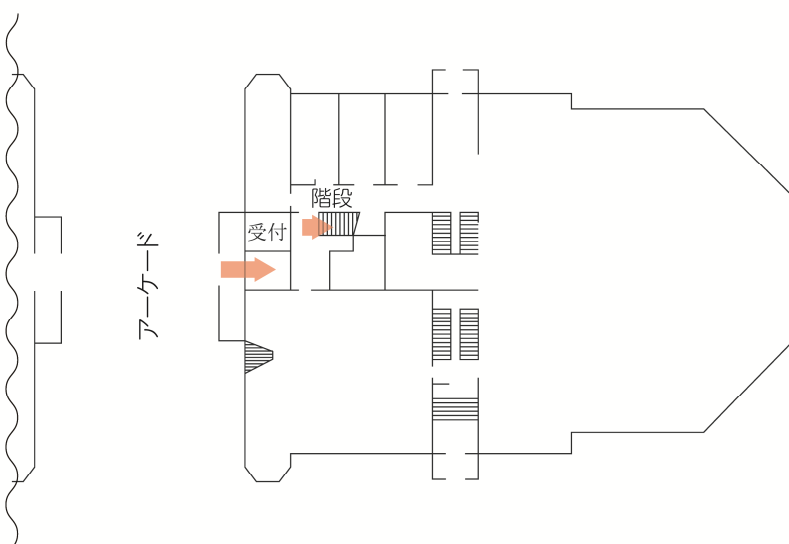
1
階



2 階



1 階



大会に関するご案内

1. 受付

受付は、両日ともに 9 時 00 分から法文 1 号館 1 階にて行います。予約参加の方は、プログラムに同封してある名札を必ずご持参いただき、受付付近で大会用ネームホルダーを受け取っていただければ、受付の必要はありません(名札を紛失された方は受付でその旨お申し出ください)。当日参加の方は、大会サイトからオンラインで参加申込・登録をしてください。大会用ネームホルダーを受付付近にご用意いたしますので、ご自身で名札にお名前を記入してください。大会会場内では、名札を必ず着用してください。当日参加の名誉会員、法人会員の方は受付にお越しください。

2. 諸費用

①大会参加費(当日)	正会員(一般)	9,000 円
	正会員(院生)	5,000 円
	準会員・学部学生(要学生証呈示)	2,000 円
	臨時会員	9,000 円
	名誉会員	無料
	法人会員	2 人目まで無料, 3 人目以降は 9,000 円
②論文集購入費(当日)		6,000 円

※名誉会員の方は、大会参加費・論文集購入費(1 冊)は無料です。

3. 総会・表彰式

1 日目の 11 時 15 分より法文 2 号館 2 階 1 番大教室を主会場、2 番大教室を遠隔会場として開催します。いずれの会場でも、軽食を用意します。

4. 研究発表・ワークショップ

口頭発表・ワークショップ・ポスター発表は、法文 1 号館・2 号館の各教室で行います。法文 1 号館には書籍販売・機器展示コーナーと休憩室を設置します。

5. 準備委員会企画シンポジウム・招待講演

1 日目の 13 時 00 分より、法文 2 号館 2 階 1 番大教室を主会場、2 番大教室を遠隔会場としてシンポジウムを開催します。2 日目の 12 時 45 分より、法文 2 号館 2 階 1 番大教室を主会場、2 番大教室を遠隔会場として招待講演を開催します。

6. クローク

クロークは、法文 1 号館 1 階 114 教室です。お預かり時間は、1 日目は 9 時 00 分から 19 時 15 分まで、2 日目は 9 時 00 分から 16 時 30 分までです。必ず当日中にお引き取りください。貴重品やパソコンはお預かりできません。

7. 休憩室・書籍販売・機器展示

大会期間中は、休憩室を法文 1 号館 2 階 217 教室・3 階 317 教室に設けます。休憩室に隣接する 216 教室・316 教室には書籍販売・機器展示コーナーを設けます。休憩室では飲み物と小菓子をご提供します。休憩室の開室は 1 日目は 9 時 00 分から 19 時 00 分(ただし書籍販売・機器展示は 18 時 00 分)まで、2 日目は 9 時 00 分から 16 時 15 分までです。

8. 昼食・売店等

1 日目は総会参加者に軽食を用意します。2 日目は昼食の準備はありません。コンビニエンスストアは学内および学外(正門を出たところ)にあります。また、学外には日曜日にも営業しているカフェ、レストランがありますので、そちらをご利用ください。

9. 喫煙場所

最寄の喫煙所は法文 2 号館の南側(三四郎池側)にあります。こちらは 4 人が定員となっています。ルールを守ってご利用ください。喫煙場所以外は禁煙です。

10. 託児サービス

大会期間中、月齢 2 ヶ月以上 12 歳(小学校 6 年生)までのお子様を対象とした託児所を設置します。時間は、1 日目は 9 時 00 分から 19 時 15 分まで、2 日目は 9 時 00 分から 16 時 15 分を予定しています。場所は申込者に別途お知らせします。申込方法等は「託児のご案内」ページ、大会 Web サイトをご参照ください。

11. 掲示板およびコミュニケーション・ボード

掲示板とコミュニケーション・ボードを、法文 1 号館 1 階の総合受付付近に設置します。大会本部からの連絡事項を掲示します。また、コミュニケーション・ボードには、研究に関する事柄であれば自由に掲示できます。

12. ソーシャルメディア利用についてのお願い

ソーシャルメディア(X(旧 Twitter)や Facebook など)において、第三者が、研究発表の内容を録音・録画・撮影したり、中継・実況・報告等をオンラインで公開する場合は、たとえ用途が個人用であったとしても、事前に発表者の許可を得てください。また、発表者も、特にそれを抑制したい場合には、ご自身の態度の明示にご協力ください。参加者相互が気分を害することがないように、充分にご配慮ください。

13. 無線 LAN 接続について

本学では、eduroam により Wi-Fi 環境を利用できます。eduroam とは、世界中にある eduroam 参加機関でキャンパスの無線 LAN(Wi-Fi)を相互に利用できるサービスです。事前に所属機関で eduroam アカウントをご確認の上ご利用ください。

また、eduroam が利用できない方は、UTokyo-Guest により Wi-Fi 環境を利用できます。UTokyo-Guest は一般の来訪者向けに提供しているソフトバンク社のサービスを用いた無線 LAN です。利用方法は下記のソフトバンク社の「FREE Wi-Fi PASSPORT」のページをご参照ください(ログイン ID の登録が必要です)。

<https://www.softbank.jp/biz/nw/wifispot/freewifi/>

14. スタッフ・大会本部・緊急連絡先

スタッフは STAFF と書かれたネームホルダーを身につけています。ご用の際はお気軽にお声がけください。大会本部は、法文 1 号館 1 階 116 教室に設けます。会場外からの緊急のご連絡は、jssp2025.utokyo@gmail.com までお願いします。

15. 常任理事会・理事会・編集委員会

常任理事会・理事会・編集委員会は、大会前日の 9 月 19 日(金)に、東京大学本郷キャンパス法文 2 号館 2 階教員談話室で開催される予定です。詳しくは各連絡用メーリングリストでご案内します。

編集委員会	13 時 00 分～14 時 00 分	法文 2 号館 2 階教員談話室
常任理事会	14 時 15 分～15 時 00 分	〃
理事会	15 時 00 分～17 時 00 分	〃

※控室として法文 2 号館 2 階 2 番大教室を用意しますので、ご利用ください。

発表者へのご案内

1. 口頭発表

受付と発表準備

発表者は可能な限りセッション開始 10 分前までにご来場ください。座長は全発表者の来場を確認してください。今大会では会場に備え付け PC はございません。必ずセッション開始前にご自身の機器の接続確認をしてください。

発表成立の要件

(a)発表論文集への論文掲載, (b)当日の発表と討論への参加の両件を満たすことで、公式発表として認められます。当日の発表と討論は、責任発表者(プログラム中の○印)が行ってください。

機器

各会場にはプロジェクタとスクリーンが設置されています。また、レーザーポインタを準備します。会場に備え付けの PC はございませんのでご注意ください。ご自身の PC をお持ちいただくことができない場合には、対応を検討しますので事前に大会準備委員会までご相談ください。

時間

口頭発表での 1 件あたりの持ち時間は 15 分で、発表時間 12 分、質疑応答 3 分です。時間厳守へのご協力をお願いします。発表中は、以下のとおり合図をします。

1 鈴: 10 分経過, 2 鈴: 12 分経過(発表終了), 3 鈴: 15 分経過(質疑応答終了)

配布資料

各自で必要と思われる部数をご準備の上、発表会場にご持参ください。会場でコピーをとることはできません。セッション開始前に配布資料を会場係にお渡しいただければ配布をお手伝いし、セッション開始後は会場出入口付近に置かせていただきます。

2. ポスター発表

受付

発表者は、セッション開始 5 分前までにポスター会場前の発表受付にお越し下さい。発表者用のネームプ

レートをお渡しします。受付は、各セッション開始 20 分前から開始します。

発表成立の要件

(a)発表論文集への論文掲載, (b)発表が割り当てられたセッションでの 90 分間のポスター掲示, (c)指定された 45 分間の在席, および, (d)質問者との個別討論への参加の 4 件を満たすことで, 公式発表として認められます。当日の発表と討論は, 責任発表者(プログラム中の○印)が行ってください。

掲示

ポスターは「A0 サイズ縦長」以内としてください。パネル上部に発表番号を掲示してありますので, 所定の位置をご利用ください。画鋲はポスター会場にご用意します。ポスターの最上段には「題目」, 「氏名」, 「所属」を明記してください。

発表者は, セッション開始時刻までにポスターを掲示してください。セッション終了後は速やかに撤収してください。両日ともに, 最終セッション終了後, 撤収されなかったポスターは会期終了後に大会準備委員会が廃棄します。

在席責任時間

1 つのセッションは 90 分です。在席責任時間は, 発表番号(P で始まる 6 桁の英数字)の下 1 桁が奇数の方は前半の 45 分間, 偶数の方は後半の 45 分間です。

3. 連名発表者による代行と発表取消

責任発表者がやむを得ない事情により欠席する場合, 準備委員会の事前の承認を得た上で, 連名発表者が発表を代行することができます。承認を得ていない場合, 公式発表として認められないことがあります。また, 口頭発表において発表の取消があった場合, その後の発表スケジュールの繰り上げは行いません。座長の指示に従い, 討論や休憩などの時間にあててください。代行や取り消しについては, 早めに準備委員会までご連絡ください。

4. ワークショップ

時間

1 企画全体で 90 分とします。企画者や司会者のもとで自由に進行していただきます。終了時間は厳守してください。

機器

各会場にはプロジェクタとスクリーンが設置されています。また, レーザーポインタをご準備します。会場に

備え付けの PC はございませんのでご注意ください。企画者または話題提供者のどなたも PC をお持ちいただくことができない場合には、対応を検討しますので事前に大会準備委員会までご相談ください。

配布資料

各自で必要部数をご準備の上、発表会場にご持参ください。会場でコピーをとることはできません。ワークショップ開始前に会場係にお渡しいただければ配布をお手伝いし、ワークショップ開始後は会場出入口付近に置かせていただきます。

打ち合わせスペース

ワークショップ専用の打ち合わせスペースはございません。休憩室等をワークショップの打ち合わせにもご利用ください。今大会では例年より多くのワークショップの申し込みがあり、個室での打ち合わせには対応できません。

5. ご連絡・お問い合わせ

大会準備委員会へのご連絡は、E-mail (jssp2025.utokyo@gmail.com) でお願います。大会開催中は、受付または大会本部(法文1号館1階116教室)にお越しいただいても結構です。交通機関の遅延や事故等による不測の事態により、ご自身の研究発表セッションの開始予定時間に間に合わない可能性が生じた場合は、なるべく早くご連絡ください。

託児のご案内

大会期間中、月齢2ヶ月以上12歳(小学校6年生)までのお子様を対象とした託児室を設置します。託児室の利用を検討されている方は、以下をご覧になり、必要な情報を大会準備委員会まで Google フォームでお知らせください。当日の要領など詳細については個別にご連絡させていただきます。ご質問なども遠慮なくお知らせください。

準備の都合上、お申し込みは 9月5日(金) までにお願ひします。この日までにご予定がはっきりしない場合はお早めにご相談ください。

1. 託児料

1日につき1,000円

2. 託児時間

1日目:9時00分～19時15分

2日目:9時00分～16時15分

※お食事の際は、保護者様に一度お引き取りいただきますようお願いいたします(お食事には休憩室等をご利用ください)。託児中の飲み物は必ずご準備ください。おやつについては、必要であればお預かりいたします。1歳未満のお子さんの場合は、事前に個別でご相談させていただきます。

3. 託児場所

東京大学本郷キャンパス内(具体的な場所はお申し込みをいただいた方に別途お知らせします。)

4. 託児委託先

株式会社 ポピンズファミリーケア

<http://www.poppins.co.jp>

5. ご連絡いただきたい内容

- ①申込者とお子様の氏名(ふりがな)
- ②お子様の大会時の年齢(3歳未満の場合は月齢まで)・性別
- ③託児予定日・時間
- ④会期中の緊急連絡先
- ⑤アレルギーなど注意する必要があることがら
- ⑥1歳未満のお子さんの場合、授乳や離乳食等に関するご要望(折り返しご連絡・ご相談いたします)

6. 申し込み先

Google フォームよりお申し込みください:<https://forms.gle/2GPrZ4tb5XWNbnNJ7>

7. 申し込み締め切り

9月5日(金)

この日以降にキャンセル等の変更がある場合は、速やかに大会準備委員会(jssp2025.utokyo@gmail.com)までご連絡ください。

備考

本サービス実施には日本社会心理学会の大会時託児室設置費補助金を活用しています。

託児料は、大会における託児室設置(暫定)ガイドライン(2004年7月18日総会決定)に基づくものです。

第1日目 9月20日(土)

	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00		
		9:45	11:00				14:45	15:45	16:00	17:15	17:30	19:00	
法文1号館1階 113教室		口頭01 AIと社会					口頭04 自己	口頭09 社会的認知	WS01 学部統計教育における Jamoviの利点と活用				
法文1号館2階 212教室		口頭02 ジェンダー					口頭05 コミュニケー ション	口頭10 応用	WS02 2024年兵庫県知事選で何が起 こったのか：3つの調査報告から				
法文1号館3階 312教室		口頭03 ネットワークと サポート					口頭06 社会的影響1	口頭11 対人関係	WS03 心理的状況研究の最前線（3） ＝対人関係研究の視点を中心に＝				
法文1号館2階 215教室	9:30	ポスター-01A	11:00				15:00	16:30	17:00	18:30			
法文1号館3階 315教室	9:30	ポスター-01B	11:00				15:00	16:30	17:00	18:30			
				11:15	12:45	13:00	14:30	14:45	15:45	16:00	17:00	17:30	19:00
法文2号館2階 1番大教室				総 会（軽食）		シンポジウム ウェルビーイングを考える クロストーク：実践知としての 社会心理学の役割をめぐって		口頭07 社会的シナ	口頭12 モデリング	WS04 日本の分断は変化しているのか？ スマートニュースメディア価値観 第2回全国調査から			
法文2号館2階 2番大教室				総 会 （遠隔会場・軽食）		シンポジウム （遠隔会場）		口頭08 感情	口頭13 文化	WS05 向社会性・反社会性・認知能力の 遺伝と環境－「学力と生きる力の ふたご家族調査」による検討－			
	9:00									18:00			
法文1号館2階 216教室		書籍販売・機器展示											
	9:00										19:00		
法文1号館2階 217教室		休憩室											
	9:00									18:00			
法文1号館3階 316教室		書籍販売・機器展示											
	9:00										19:00		
法文1号館3階 317教室		休憩室											

第2日目 9月21日(日)

	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00
		9:45	10:45	11:00	12:00		14:30	16:00		
法文1号館1階 113教室		口頭14 意思決定	口頭17 法と心理				WS08 人とAIの共生に向けて： 人間-AI相互作用を探る			
法文1号館2階 212教室		口頭15 政治	口頭18 世論				WS09 労働者の仕事や組織への 意識30年の変化			
法文1号館3階 312教室		口頭16 信頼と利他行動	口頭19 社会的影響2				WS10 将来世代をめぐる心のはたらき： 社会心理学からのアプローチ			
法文1号館2階 215教室		10:00	11:30				14:30	16:00		
		ポスター04A					ポスター05A			
法文1号館3階 315教室		10:00	11:30				14:30	16:00		
		ポスター04B					ポスター05B			
法文2号館2階 1番大教室		9:45	11:15		12:45	14:15	14:30	16:00		
		WS06 学問は社会の要請に応えられるの か？：基礎と応用のクロスロード			招待講演 文化と認知研究の新たな方向性 について：モンゴル・日本・カナダ の比較研究を中心として		WS11 環境の多様性と心の多様性 —文化心理学・社会生態心理学 からの挑戦—			
法文2号館2階 2番大教室		9:45	11:15		12:45	14:15	14:30	16:00		
		WS07 共感的関心と援助			招待講演 (遠隔会場)		WS12 社会心理学に役立つ技術やツ ール：VRと生体反応計測を用いた 研究の可能性			
法文1号館2階 216教室	9:00	書籍販売・機器展示								
法文1号館2階 217教室	9:00	休憩室								
法文1号館3階 316教室	9:00	書籍販売・機器展示								
法文1号館3階 317教室	9:00	休憩室								

ウェルビーイングを考えるクロストーク： 実践知としての社会心理学の役割をめぐって

企画者： 唐沢 かおり(大会準備委員長)

登壇者 内田 由紀子(京都大学人と社会の未来研究院)

吉村 有司(東京大学先端科学技術研究センター)

モデレーター 唐沢 かおり(東京大学大学院人文社会系研究科)

概要

近年、社会課題の解決を目指す取り組みや、Society5.0に代表される新たな社会のありかたを検討する議論において、「ウェルビーイング」がキーワードとして着目されている。個々人の生活の質を向上させる取り組み、制度設計、社会インフラの構築など多岐にわたる領域で、ウェルビーイングをどのように高めるのか、またそもそも、ウェルビーイングをどのような概念としてとらえるべきかが論じられている。この潮流の中で、個人の幸福感を中心としてウェルビーイング研究に取り組んできた社会心理学に対して、貢献への期待が寄せられるとともに、実践的な専門知としての責任も問われている状況にある。本セッションでは、社会心理学的なウェルビーイングに関する研究の第一人者である内田由紀子氏と、建築家として市民共創型スマートシティの構築を国際的に推進してきた吉村有司氏をお迎えし、ウェルビーイング向上をめざす実践的なアプローチの最先端について、ご紹介いただくとともに、社会心理学が果たしうる役割についての議論を、フロア各位も交えてのクロストークという形式で深めていきたい。

本企画は「日立東大ラボ：アーバントランスフォーメーションプロジェクト(UXPI)」の後援を受けている。

文化と認知研究の新たな方向性について：

モンゴル・日本・カナダの比較研究を中心として

企画者： 大会準備委員会

登壇者 増田 貴彦(アルバータ大学心理学部)

司会者 村本 由紀子(東京大学大学院人文社会系研究科)

概要

近年、ヒトの行動の文化的多様性についての議論が心理学、とりわけ文化心理学において活発である。これらの議論の背景には、まず、ヘンリックらが「奇妙な(WEIRD)人々」と呼ぶ「欧米人学生サンプル」が心理学データベースの大半を占めていることへの批判、またそうしたバイアスのあるデータベースをもとに安易に「こころの普遍性」が語られていることへの批判がある(例 Henrich, 2020; Henrich et al., 2010)。次に、既存の心理学理論の精緻化のためには、洋の東西の比較を超え、いままで心理学において目立った研究が少なかった地中海地域・中東地域・南米地域をはじめとした広範な文化圏でのデータ収集をする必要性が研究者に求められていることがある(例 Kitayama et al. 2022; San Martin et al., 2018; Uskul et al., 2023)。本講演では、こうした文化心理学の活発な議論と軌を一にする研究の一例として、まず講演者が過去20年行ってきた「文化と認知研究」を紹介し、文化心理学における基礎研究の重要性を論じる。次に講演者が近年研究対象としているモンゴルの遊牧文化・宗教・歴史・地理を紹介し、過去五年間で収集したモンゴル・日本・カナダの比較研究の結果を報告する。最後に、文化心理学の新たな方向性を定めるうえで必要となる包括的な理論的枠組みについて、フロア各位を交えての議論の時間も用意したい。

学部統計教育における jamovi の利点と活用

企画者・司会者：芝田 征司（相模女子大学）

眞嶋 良全（北星学園大学）

話題提供者： 芝田 征司（相模女子大学）

眞嶋 良全（北星学園大学）

Sebastian Jentschke（University of Bergen・非会員）

概要

近年、SPSS や SAS に代わるオープンソース統計ツールとして R 言語の利用が拡大しているが、文系学部の学生にとってコマンド入力型インターフェースは依然として高い障壁となっている。この課題を解決する代替ツールとして注目を集めているのが JASP や jamovi といった GUI を備えた無料の統計ツールである。

jamovi は JASP から派生したプロジェクトであり、その直感的なインターフェースは JASP と同様に初心者にも親しみやすい設計となっている。jamovi は従来型の頻度論的統計手法を中心に据えながら、R との統合を強化し、教育ツールとしての汎用性向上を目指したものになっている。とくに、jamovi ではデータ編集から分析結果のレポート作成までを 1 つのアプリケーション内で完結できる点が大きな特徴である。さらに、jamovi は R と親和性が高く、内部で R コマンドを実行することも、jamovi と同じ分析を R でも実行することもできるため、R 導入への橋渡しとしても活用可能である。また、拡張モジュールによる機能拡張も容易で、モジュールの開発も活発に行われている。こうした柔軟性と拡張性により、jamovi は心理学統計の初学者にとっての学習ツールとしてだけでなく、実際の研究活動においても日常的に使用できる実用的な分析環境となっている。

本ワークショップでは、この jamovi の特徴を踏まえ、学部初級統計教育における実践例やコラボレーションの可能性について議論する。芝田と眞嶋からは、それぞれ授業での jamovi 活用例について話題提供を行う。また、Jentschke 氏からは jamovi のコラボレーションツールとしての可能性について話題提供をいただく。Jentschke 氏は jamovi 開発チームの一員であり、複数のモジュール開発に携わっている。本ワークショップでは話題提供後、教育現場で求められる機能や分析手法について議論を深め、最終的には参加者全員で jamovi 活用方法や今後の展望について意見交換を行いたい。

2024年兵庫県知事選で何が起こったのか：3つの調査報告から

企画者： 大藺 博記（鹿児島大学）

榊原 良太（昭和女子大学）

司会者： 榊原 良太（昭和女子大学）

話題提供者： 大藺 博記（鹿児島大学）

三浦 麻子（大阪大学）

田中 辰雄（横浜商科大学・非会員）

指定討論者： 鳥海 不二夫（東京大学・非会員）

砂原 庸介（神戸大学・非会員）

概要

2024年の兵庫県知事選は大きな注目を集めた。職員からの内部告発に端を発し、知事のパワハラ疑惑やおねだり疑惑等の報道がなされ、県議会で不信任案が全会一致で可決された末での選挙であった。結果は、強い批判を受けていた前知事が再選されるという「逆転劇」とも言えるものであり、SNS上での情報発信が投票行動に影響を与えた可能性が指摘されている。同年に行われた東京都知事選やアメリカ大統領選と並び、時代を象徴する出来事といえ、新旧メディアの社会的影響過程、情報リテラシー、そして選挙や民主主義の行方などを考える上で、この知事選で何が起こったのかを捉えることは重要な意味を持つ。

この選挙の前後で、大藺・榊原、三浦氏、田中氏の3組の研究グループが独立に調査をおこなっていた。それぞれの調査目的や質問項目には相違点も類似点もあるが、本ワークショップでは、3者が一堂に会し、それぞれの分析結果を報告する。既に、それぞれの調査報告はインターネット上で公開されているが、より詳細な結果や追跡調査の結果等を共有することで、一貫している（していない）結果は何か、そして、結局何が言えそうか（言えなそうか）を浮き彫りにしていきたい。さらに、鳥海氏には計算社会科学の観点から、砂原氏には政治学の観点からそれぞれ指定討論をいただくことで、多角的な視点から今回の事象を考えたい。最後に、フロアからの質問や意見をいただく予定である。

選挙自体は一度きりの事象であり、それだけで一般化された知見を導くことは困難であるが、今後の研究に対して有益な示唆が得られることを期待する。

心理的状況研究の最前線（3）－対人関係研究の視点を中心に－

企画者・司会者：堀毛 一也（東洋大学人間科学総合研究所・岩手大学名誉教授）

話題提供者： 大坊 郁夫（北星学園大学・東京未来大学・大阪大学名誉教授）

萩原 千晶（和洋女子大学・非会員）

堀毛 一也（東洋大学人間科学総合研究所）

菊谷 まり子（金沢大学・非会員）

概要

人間一状況論争や相互作用論に関する論議は、70年代から80年代にかけて盛んに行われたが、本邦では90年代以降関心が薄れ、研究も下火になっていった。一方欧米では、研究テーマとしてこの問題が繰り返し扱われ、雑誌や学会でも論議されてきた。たとえば、European Journal of Personality 誌の1999年の特集号では、Mechelen & De Raad (1999)が、「パーソナリティと状況」という特集を組み、パーソナリティ研究の関心が、統合的な枠組みの構築に向かっていると論じたうえで、その実現に向けて「状況」をどう把握するかの論議があらためて重視されていると主張している。また、Journal of Research in Personality 誌の2009年の特集号では、Mischel(1968)の"Personality and Assessment" の出版から40年を記念して、人間一状況論争に言及した数多くの論文やエッセイが掲載されている。冒頭の紹介で、編者のDonellan et al.(2009)は、Mischelの著書や論争のインパクトについてより広範に論じるとともに、人および状況要因がどのように統合され、行動に関する包括的な説明がなされるかという問題に焦点をあてたと論じ、人間一状況論争のもたらした研究上の意義をあらためて強調している。このように欧米では、人間一状況論争がいまだにホットな話題として研究者の関心を集めている（堀毛、2014）。

こうした中で、Funder(2006)は、「パーソナリティ三相説 (personality triad)」を提唱している。これは人間のパーソナリティ、行動、状況を同時に検討することの重要性を論じた考え方で、検討のためのツールとして、Q分類法を基盤としたパーソナリティの測定道具である California Adult Q-Set (CAQ: Bem & Funder, 1978) とともに、行動評価ツールとしての The Riverside Behavioral Q-set (RBQ: Funder et al, 2000)や、状況評価のための Riverside Situational Q-sort (RSQ: Funder et al, 2016) が考案され広範に利用されている。さらに、Ruthmann, Sherman, & Funder(2015)により European Journal of Personality に掲載された論文は、「状況研究のランドマーク (Mroczek & Condon, 2015)」として評価され、状況研究に再び関心をもたらしめている。その2年後にネットで公開され、紙媒体でも出版された、Ruthmann et al.(eds., 2017, 2020) "The Oxford Handbook of Psychological Situation" は、31章からなる大著であり、心理的状況研究の最新の流れを通覧する好著となっている。

今回は、この著作の翻訳（福村出版より刊行予定、2025）に取り組んだ方々に話題提供者として登壇いただき、特に対人関係研究と心理的状況との関連について解説をお願いし、本邦における心理的状況研究の再活性化につなげたい。まず、大坊郁夫氏には、「他者を状況として捉える－関係の文脈が心理現象を形づくる－（仮）」という演題で、「関係」という文脈が人間の行動を根本的に形づくる最も強力な広範な状況的影響の1つである（Clark et al., 2020）という視点から関連する状況研究について論じていただく。萩原千晶氏には、「相互依存的な社会状況に対処する（仮）」という演題で、相互依存を社会状況の基本的な特徴と捉えたうえで、Molho & Baliet(2020)に従い、相互依存知覚を形成するかを理解するための3つの理論的アプローチをご紹介いただき、状況知覚とのつながり等についてご紹介いただく。堀毛一也氏には、「状況の強さ理論（仮）」という演題で、Mischel(1977)の提唱した「強い状況、弱い状況」という概念に関連する研究の発展について、Meyer et al(2020)を基盤に、この考え方が示す理論的・実践的示唆について論じる。最後に菊谷まり子氏には「文化の制約－文化システムにおける状況の制約の役割－（仮）」という演題で、Gelfand et al.(2020)を基盤に、「状況の強さ」を鍵概念として、文化と状況がどう相互作用しながら人間の精神と行動に関わるのかという問題について解説いただく。指定討論者は設けず、フロアとの自由なやりとりを期待したい。

日本の分断は変化しているのか？

スマートニュースメディア価値観第2回全国調査から

企画者・司会者：小林 哲郎（早稲田大学）

話題提供者： 池田 謙一（同志社大学）

山脇 岳志（スマートニュース メディア研究所・帝京大学）

笹原 和俊（東京科学大学）

大森 翔子（法政大学）

小林 哲郎（早稲田大学）

指定討論者： 柴内 康文（東京経済大学）

概要

スマートニュースメディア価値観第1回全国調査は、現代日本における分断の実態を明らかにすることを目的とし、情報環境、イデオロギー、私生活志向、道徳的価値観、首相に対する好悪感情、統治に対する不安感など、多角的な視点から社会の対立構造を分析した。その成果は『日本の分断はどこにあるのか——スマートニュースメディア価値観全国調査から検証する』（勁草書房）として刊行された。2025年1月には第2回全国調査が実施され、第1回調査からのパネルサンプルに加え、新たなサンプルも収集された。さらに、陰謀論や生成AIといった新たな社会的テーマに関する質問項目も導入された。本ワークショップでは、これら2回の調査結果に基づく分析を通じて、日本社会における分断の変容と持続性を検討し、同時に、現代日本が直面する多様なイシューに対する世論の特性について議論を深めていく。

向社会性・反社会性・認知能力の遺伝と環境

—「学力と生きる力のふたご家族調査」による検討—

企画者： 敷島 千鶴 (帝京大学)

川本 哲也 (慶應義塾大学)

司会者： 敷島 千鶴 (帝京大学)

話題提供者： 川本 哲也 (慶應義塾大学)

下司 忠大 (立正大学)

敷島 千鶴 (帝京大学)

指定討論者： 山形 伸二 (名古屋大学・非会員)

概要

慶應義塾双生児研究では、形質に見られる個人差の要因を、遺伝と環境という原因論から明らかにするために、大規模双生児レジストリを構築し、広範な形質と、その個人を取り巻く家庭や社会の背景を繰り返し測定してきた。そして、身体的形質のみならず、パーソナリティや感情、知能という心理的形質の個人差にも、さらには、教育的・社会的達成という社会的形質の個人差においても、遺伝の影響が顕著に寄与していることを明らかにしてきた。

依拠する方法論は、行動遺伝学の双生児法である。行動遺伝学では、測定された人間の形質の分散を、遺伝分散・共有環境分散・非共有環境分散の3成分に統計学的に分割することにより、その形質の背後にあり、個人差を生む要因を、遺伝要因・共有環境要因・非共有環境要因の影響に分解して推定する。そこで拠り所とされるのが双生児であり、遺伝情報が同一である一卵性双生児対の類似性と、遺伝的差異の約50%を共有する二卵性双生児対の類似性が比較される。

本企画では、子ども達が認知能力と社会情動的スキルをどのように発達させていくのかを明らかにするために、首都圏ふたごプロジェクトの2003~2010年生まれの双生児を対象とし、隔年で実施している「学力と生きる力のふたご家族調査」から得られた知見と課題について、報告及び議論を行う。同調査では2018年に第1回を開始して以来、現在第4回まで終了し、2026年に第5回を予定している。これまでの調査協力家族数は、第1回が722、第2回が740、第3回が744、第4回が565であり、1回以上参加した家庭数は1080に及ぶ。

話題提供では、まず、敷島が調査の概要を、川本が行動遺伝学双生児法の方法論を説明する。そして、川本が道徳基盤の個人差の背後にある遺伝環境構造について、共通経路モデルと独立経路モデルをあてはめ検討した結果を報告する。下司はダークな特性 (Dark Triad) と冷淡で無感情な特性 (CU 特性) との相関を、遺伝と環境の要因レベルから説明する。敷島は小中学生の学力及び、推論能力認知能力の遺伝と環境の影響を明らかにした上で、向社会性・反社会性・認知能力に重複する要因についても検討を行う。

青少年期の社会的形質と認知能力に寄与する、遺伝と環境の複雑な相互作用を紐解くことにより、行動遺伝学は社会心理学にどのように貢献し得るのか、指定討論者が提起する論点をもとに、広く議論を展開する。

学問は社会の要請に応えられるのか？：基礎と応用のクロスロード

企画者： 竹橋 洋毅 (奈良女子大学)

尾崎 由佳 (東洋大学)

司会者： 尾崎 由佳 (東洋大学)

話題提供者： 豊沢 純子 (大阪教育大学)

橋本 博文 (大阪公立大学)

縄田 健悟 (福岡大学)

指定討論者： 西田 公昭 (立正大学)

村本 由紀子 (東京大学)

概要

本ワークショップでは、社会心理学はいかに社会の役に立つことができるかという観点から、基礎から応用まで幅広いテーマで活躍する方々による話題提供および指定討論を通し、「社会心理学のこれから」について議論する。

人間は社会のなかで生きていて、そこでは様々な問題が起きている。対人・集団間の葛藤や分断・格差、戦争や紛争、災害や犯罪、マイノリティの生きづらさ、疎外や孤独、精神病理や自殺などは、神話や古典にも記されているように、有史以来の重大な問題であり続けている。これらが形成・維持されている主要因としては、人間そのものや制度・歴史が挙げられる。そうであるなら、個人×状況の相互作用をエビデンス・ベースドでアプローチする社会心理学は、これらの重大で難解な問題に対して答えを出すことができるはずである。「よい理論ほど、実際に役に立つものはない」。これは、グループ・ダイナミクスの祖クルト・レヴィンの言葉である。社会心理学が真に有意義な研究をしているのならば、その英知は社会問題の解決に有用であると考えられる。また、社会心理学の人間観・研究計画・測定・分析などの専門性は他の学問分野と連携し、その総合知を結集する上でも役立つ可能性がある。

しばしば私たちは忘れがちであるが、社会心理学は特権的で無謬の地位にあるわけではない。もしも「無人島」に流れ着いたら、社会心理学者というだけで、食料や安全が保障されるわけではないだろう。これは極端な例に過ぎないが、これからもわかるように、ある学問が投資に値するかどうかという判断は社会の豊かさやその学問の社会的有益さによって左右されると考えられる。少子高齢化が加速する将来社会では、あるいは、政策決定者の方針転換やそれらに対する市民の反応によっては、学問の無謬性はこれまでほどには保持されず、その存在価値を説明し、実際に社会に役立つことが強く求められるようになる未来予想図は十分にありえる。「基礎研究として重要である」というだけでは、その存在価値は認められなくなっていくかもしれない。私たちが社会心理学という学問の未来を真剣に考えるならば、基礎研究を大切にしながらも、社会の要請に応え、実際に役立つということを示すことで、社会からの理解を得ていくことも重要であろう。

「社会の役に立つ」というのはその実、多義的・多層的であり、様々な考えや形がありえる。本ワークショップでは「社会心理学の応用」をキーワードとして、社会心理学の未来について議論する。まず、豊沢氏は社会的認知の立場から、防災や安全についての応用研究・実践を発表し、その意義を議論する。次に、橋本氏は社会・文化心理学の立場から、インクルージョンや多様性についての応用研究・実践を発表し、その意義を議論する。そして、縄田氏は集団力学の立場から、組織チームワークや集団間紛争などについての応用研究・実践を発表し、その意義を議論する。最後に、西田氏からは本テーマの尊敬すべき先達として、村本氏からはこれからの社会心理学をともに担う仲間として指定討論いただき、フロアからご意見を頂いた上で、「社会心理学の未来」について皆で一緒に考えることができれば幸いである。

共感的関心と援助

企画者・司会者：石井 敬子（名古屋大学）

話題提供者： 宮川 裕基（追手門学院大学）

新谷 優（法政大学）

Shaofeng Zheng（一橋大学）

指定討論者： 石井 敬子（名古屋大学）

概要

人を特徴づける大規模な集団生活の基盤となっているのが相互依存関係であり、援助－被援助の関係、および援助提供と援助要請の相互作用は、その重要な要素である。援助とは、コストを支払いながらも他者の利益を上げようとする行為を指す。援助行動は、提供者の能力や動機づけ、被援助者が抱える問題の重大性、援助・被援助の結果として予測される感情、コストと利益の計算、関係に関する社会・文化規範等の影響を受け、そのメカニズムは複雑である。その中でも本ワークショップにおいて注目するのは、他者への思いやりを指す共感的関心である。その上で、特に共感的関心にかかわる心理過程と社会・文化環境による影響、そして共感的関心と援助提供および援助要請行動との関連について最近の知見を紹介し、フロアとともに今後の研究の可能性について議論することを目的とする。話題提供は、自己に対する思いやりを表すセルフコンパッションに関する一連の研究に基づいた共感的関心への示唆（宮川）、他者を思いやることの目標が援助提供を促す可能性に関する研究（新谷）、共感的関心の文化差とその援助要請への帰結（Zheng）の予定である。これらをもとに指定討論（石井）では、議論を促すためのたたき台として今後の研究に向けたいくつかの可能性を提示する。

人とAIの共生に向けて：人間-AI 相互作用を探る

企画者： 安藤 香織 (奈良女子大学)

大沼 進 (北海道大学)

司会者： 大沼 進 (北海道大学)

話題提供者： 相馬 ゆめ (北海道大学・日本学術振興会特別研究員)

後藤 晶 (明治大学)

安藤 香織 (奈良女子大学)

Sofia SAHAB (京都大学・非会員)

指定討論者： 日比野 愛子 (弘前大学)

概要

本ワークショップの目的は、人間とAIが協働することでどのような可能性が生まれるかを検討することである。AI技術は急速に発展しており、今後は人間が一方的にAIへ指示を与えるのではなく、AIが独自に判断を下し、人間と対等なパートナーとして共同作業を行う場面が増加すると予測される。一方で、AIがいかにかして独自の判断を形成するかなど、未解明の領域も多い。本ワークショップでは、人間とAIの相互作用に関する最新の研究成果を紹介する。

相馬ゆめ (社会心理学) は、Discourse Quality Index (DQI) という指標を用いた議論評価の観点から、AIが人間同士の討議の質の向上に貢献できる可能性と今後の展望を整理する。後藤晶 (行動経済学) は、oTreeを用いてオンラインで実施した経済ゲーム実験を通じて明らかになったAIと人間のインタラクションの特徴を整理し、人間とAIが持続的に共存するための論点を検討する。安藤香織 (社会心理学) は、環境問題を模したオンラインでのジレンマゲームを用いて、コミュニケーションが人間同士、AI同士、また人間とAIとの協力的行動に及ぼす影響を検討した研究を紹介する。Sahab (情報科学) からは、AIがファシリテーターとなることによって、アフガニスタンの分断された集団同士での議論における偏見や不安を軽減する効果を示す実験結果を報告する。対面での接触がリスクを伴う状況においても、オンラインコミュニケーションにおけるAIの活用によって、異なる集団での理解促進の有効な手段となる可能性がある。

指定討論者には、科学技術論の立場から自由に議論いただきたい。

最後に、フロアとの議論を通して、今後の人間とAIの共生のあり方、人間とAIとの協働に関する研究の可能性について考えたい。

労働者の仕事や組織への意識 30 年の変化

企画者・司会者：向井 有理子（公益社団法人 国際経済労働研究所）

話題提供者： 坪井 翔（株式会社 応用社会心理学研究所・公益社団法人 国際経済労働研究所）

鈴木 文子（公益社団法人 国際経済労働研究所）

向井 有理子（公益社団法人 国際経済労働研究所）

指定討論者： 阿部 晋吾（関西大学）

概要

労働者を取り巻く環境は目まぐるしく変化してきた。バブルの崩壊、リーマンショックを経て、近年は人手不足が加速してきている。こうした社会の変化とともに労働者の意識も変化してきているだろう。しかし、転職や離職への意欲が高まっているのではないか、かつてに比べて女性の活躍の場は広がってきている、などといったイメージは本当にそうだろうか。本ワークショップでは、(公社)国際経済労働研究所の第30回共同調査「ON・I・ON2」(以下 ON・I・ON2)の結果を用いて、労働者の仕事や組織への意識の変遷をたどるとともに、今後、我々の社会に起こりうる労働者の意識の変化について考察していくことが目的である。

ON・I・ON2 は、(公社)国際経済労働研究所で1990年に開始された共同調査であり、わが国の代表的労働組合を中心に多くの参加を得て現在参加組織数 460、参加組織人員 250 万を超える規模となっている。労働組合への参画意識（組合関与）と働きがい（ワーク・モチベーション）を調査の2本柱としており、労働組合に関する話題を向井、働きがいに関する話題を坪井から提供する。また、ジェンダーギャップの観点からも30年の変化について鈴木から話題提供を行う。これまでの社会の変化と意識の変化、加えて、社会的なイメージと実際の労働者の意識のギャップなども踏まえ、今後の我々が仕事を行い、生活をしていく中で、必要とされている研究や検証は何か、豊富なデータの活用に関しても議論を行いたい。

将来世代をめぐる心のはたらき：社会心理学からのアプローチ

企画者・話題提供者： 三木 毬菜（関西学院大学）

高橋 茉優（東京大学）

佐藤 みちる（東京大学）

司会者： 三木 毬菜（関西学院大学）

指定討論者： 林 岳彦（国立環境研究所）

概要

持続可能性の問題が社会に浸透し、将来に生きる人々が「社会を構成する他者」として認識されつつある現代において、社会心理学にはいかなる役割が求められているのだろうか。環境・技術・制度の変化に伴い、まだ存在しない将来の人々が社会的判断や配慮の対象となりつつある。こうした「将来世代」に対する認識や、将来の人々への協力行動を生起するメカニズムを明らかにすることは、世代を超えた社会的相互作用の新たな地平を拓くとともに、制度設計や合意形成の基盤を理解するうえでも重要な意義を持つ。本ワークショップでは、新たな他者としての将来世代をめぐる心のはたらきに焦点を当てる。

具体的には、3名の話題提供者がそれぞれの専門分野の視点と研究成果から、議論を展開する。まず佐藤が、将来世代という他者を人々がどのように認識しているのかについて発表する。社会的には将来のために行動することが称揚されているが、「将来の人々」と聞いたときに人々はどのような存在を想像するのか。そうした将来世代に対するイメージや認識に関する調査結果を報告する。

続いて、高橋は、International Social Survey Programme (ISSP) が行った環境問題に関する国際比較調査データを用いた二次分析の結果を報告する。将来世代への配慮が特に重要とされる環境問題を題材に、環境保護という協力的な行動の意図が調査時点や参加者の年齢、および社会的属性などによってどのように異なるかを示す。

最後に、三木が将来世代への利他行動を経済実験で検討した研究を報告する。現世代と将来世代の利害葛藤状況における将来世代への利他行動と社会的価値志向性 (SVO) との関連について、数理モデルから検討した。数理モデルから得られたインプリケーションを実証した実験結果を報告する。

指定討論者には国立環境研究所の林岳彦先生をお迎えして討論をお願いする。また、社会問題と将来世代との関連を研究することについて参加者の皆さまと議論できれば幸いである。

環境の多様性と心の多様性－文化心理学・社会生態心理学からの挑戦－

企画者： 結城 雅樹（北海道大学）

増田 貴彦（アルバータ大学）

司会者： 結城 雅樹（北海道大学）

話題提供者： Tsolmon Bayart-Od（アルバータ大学）

日下部 春野（北海道大学）

竹村 幸祐（滋賀大学）

指定討論者： 増田 貴彦（アルバータ大学）

概要

文化心理学の発展により、従来の社会心理学研究が欧米中産階級中心（いわゆる「WEIRD」: Henrich et al., 2010）の標本に偏っていたこと、そして人間心理の多様性と文化的信念体系の役割が明らかにされた。さらに近年は、こうした文化差の根底にある社会環境や自然環境の多様性に注目する「社会生態心理学」が台頭し、心の多様性をより一般性の高い理論で説明する試みが進展してきた。人間心理と環境の相互作用を多層的に捉え直すこの動きは、社会心理学が本来目指してきた「個と社会の相互関係」の解明に新たな視点をもたらすものである。

本ワークショップでは、社会環境や自然環境が人々の心理に及ぼす影響についての最新の研究成果を、三つのプロジェクトを通して紹介する。

- 乾燥した草原地帯で生計を営む遊牧民の心理（Bayart-Od）
- 評判システムの社会差とその心理的帰結（日下部）
- コミュニティレベルの分析を通じた「文化差」の本質の探究（竹村）

指定討論者の増田は、これらの発表を受けて「人間心理が外部環境によってどのように規定されるか」について議論を展開する。

本ワークショップを通じて、人間心理が文化・社会・自然環境といかに関連しているかを多角的に考察し、現代社会が直面する諸課題への新たな視座を提供することを目指す。

社会心理学に役立つ技術やツール：

VR と生体反応計測を用いた研究の可能性

企画者・司会者：大江 朋子（帝京大学）

話題提供者： 高田 剛志（帝京大学）

小川 充洋（帝京大学）

大江 朋子（帝京大学）

概要

研究は新たな技術やツールとともに発展する。これは研究分野を問わず当てはまることであり、ご存知の通り、心理学にも多様な技術とツールがある。知能、感情、パーソナリティ、態度などを測定する検査や尺度の開発および改善は古い時代から継続して行われている。脳波や脳血流、視線、表情、音声、加えて血液や唾液に含まれるホルモン濃度や神経伝達物質などは、心理学研究に取り入れられるようになって久しい。近年では、実験や調査の設計からデータ収集までをオンラインで行うツールの利用も盛んになっている。表情や音声を用いた感情認識 AI、ウェアラブルデバイスや生体センサー、自然言語処理も、5年前に比べても格段と使いやすくなってきた。

しかしながら、これらの技術を実際に研究で利用するにはまだハードルがあると思われ、社会心理学の分野での活用は限定的である。例えば、バーチャルリアリティは社会的相互作用をリアルに再現することで、また、生理指標の利用は意識の影響を排除した客観的な指標となり得ることで、それぞれ利用する価値のある技術またはツールとして期待されてきたものの、社会心理学的な研究における利用例は少ない。その理由は複数あると思われるが、本ワークショップではそれらの理由を考慮したうえで、異分野の研究者と情報を共有し連携を強めることで、これらの技術やツールの利用に伴うハードルを下げることである。社会心理学的な異分野連携の研究例を紹介するとともに、異分野からの話題提供者として、バーチャルリアリティを用いて医療技術分野を中心に研究教育活動を行っている高田剛志先生と、デジタルデバイスの利用や非侵襲・非拘束の生体反応計測の技術を開発してきた小川充洋先生が登壇する。社会心理学的な異分野連携の研究例を紹介し、社会心理学の研究者にフィットする技術やツールにどのようなものか、どのような研究連携をしていくことができるかを、研究資源（e.g., 場所、資金、機材）などの実施上の課題や創意工夫についても含めて情報共有し、今後の社会心理学研究を議論する場としたい。

O01 口頭発表

第1日 (9月20日) 9:45 ~ 11:00

法文1号館1階113教室

AIと社会

座長 横井 良典

O0101	9:45 ~ 10:00 生成AIに対する期待意識の分類とその特徴 —基本属性, 性格・価値観, ICT利用との関係—	○石原 昌 水野 一成 廣瀬 通孝	(株)NTTドコモ (株)NTTドコモ 東京大学
O0102	10:00 ~ 10:15 道徳的状況におけるAIからのアドバイスに対する嫌悪感	○佐藤 みちる 稲増 一憲 唐沢 かおり	東京大学 東京大学 東京大学
O0103	10:15 ~ 10:30 町内会でのAI活用は, 人々の交流を促進できるか	○福山 秀平 工藤 泰幸 井桁 由貴 苔米地 飛 清水 佑輔 大高 瑞郁 橋本 剛明 唐沢 かおり	元東京大学 東京大学 東京大学 東京大学 成城大学 東洋大学 東洋大学 東京大学
O0104	10:30 ~ 10:45 AIフィードバックがスキマバイト従事者に及ぼす効果 ソーシャル・サポート認知／自己効力感／所得に及ぼす効果に関するRCT	○渡邊 寧 中山 真孝 竹村 幸祐 内田 由紀子	京都大学 京都大学 滋賀大学 京都大学
O0105	10:45 ~ 11:00 責任の所在を明確にすることは人工知能の受容につながるのか?	○横井 良典	中京大学

O02 口頭発表

第1日 (9月20日) 9:45 ~ 11:00

法文1号館2階212教室

ジェンダー

座長 石井 国雄

O0201	9:45 ~ 10:00 共有的他者の存在がリスクに関する態度と行動に及ぼす影響 令和6年能登半島地震後の調査①	○塩谷 尚正 中川 由理	梅花女子大学 高崎商科大学
O0202	10:00 ~ 10:15 ジェンダー観と関わる災害避難所意識構造の検討 令和6年能登半島地震後の調査②	○中川 由理 塩谷 尚正	高崎商科大学 梅花女子大学
O0203	10:15 ~ 10:30 現代的セクシズムとデモグラフィック要因の関連 2024年オンライン調査データを用いた再検証	○高橋 拓真 高 史明	東洋大学 東洋大学
O0204	10:30 ~ 10:45 職場におけるジェンダー・ハラスメントの解消に向けて —第三者の介入行動を促進または阻害しうる要因—	○鈴木 文子 向井 有理子	(公社) 国際経済労働研究所・ 大阪公立大学 (公社) 国際経済労働研究所
O0205	10:45 ~ 11:00 ピンクと青に関するジェンダーイメージの検討 (2) 平等主義パラドックスの再現性	○石井 国雄 田戸岡 好香	東京家政大学 高崎経済大学

O03 口頭発表

第1日 (9月20日) 9:45 ~ 11:00

法文1号館3階312教室

ネットワークとサポート

座長 五十嵐 祐

- | | | | |
|-------|---|--|---|
| O0301 | 9:45 ~ 10:00
対面交流・バーチャル交流と孤独感の関連
日本, 韓国, 香港の都市居住中高年比較 | ○片桐 恵子
Nahyun Kim | 神戸大学
神戸大学 |
| O0302 | 10:00 ~ 10:15
高齢者のスマートフォンの関与と生活満足度の関連 | ○水野 一成
近藤 勢津子
廣瀬 通孝 | NTTドコモ
NTTドコモ
東京大学 |
| O0303 | 10:15 ~ 10:30
老いに対する態度における都市度の影響とその規定要因
—都市と非都市の高齢者はどちらがポジティブに老いているのか?— | ○竹内 真純
小林 江里香 | 東京都健康長寿医療センター研究所
東京都健康長寿医療センター研究所 |
| O0304 | 10:30 ~ 10:45
どのような人々が, 地域の人々との交流機会の提供を求めるのか | ○清水 佑輔
工藤 泰幸
井桁 由貴
福山 秀平
苔米地 飛
大高 瑞郁
橋本 剛明
唐沢 かおり | 成城大学
東京大学
東京大学
元東京大学
東京大学
東洋大学
東洋大学
東京大学 |
| O0305 | 10:45 ~ 11:00
孤独に対する他者信念の推測
横断ネットワークデータによる検討 | ○五十嵐 祐
平島 太郎
吉田 琢哉 | 名古屋大学
愛知淑徳大学
岐阜聖徳学園大学 |

O04 口頭発表

第1日 (9月20日)

14:45 ~ 15:45

法文1号館1階113教室

自己

座長 竹橋 洋毅

- | | | | |
|-------|---|--|--|
| O0401 | 14:45 ~ 15:00
「自己呈示の内化」は内向性では生じない
社会的に望ましくない内向性の定義を用いた検討 | ○上田 皐介
山形 伸二 | 名古屋大学・日本学術振興会
名古屋大学 |
| O0402 | 15:00 ~ 15:15
反省への動機づけ調整とその関連要因の検討 | ○田崎 希実
小林 愛佳
篠原 美里
尾崎 由佳
竹橋 洋毅 | 奈良女子大学
東京大学
奈良女子大学
東洋大学
奈良女子大学 |
| O0403 | 15:15 ~ 15:30
日本における外向性の経時的変化
性別ごとの検討 | ○秋元 涼之介
荻原 祐二 | 東京大学
青山学院大学 |
| O0404 | 15:30 ~ 15:45
自己制御への動機づけの源泉となる心理欲求の概念
構造
真実欲求は、自己決定理論の3つの欲求とは異なるものなのか？ | ○竹橋 洋毅
豊沢 純子 | 奈良女子大学
大阪教育大学 |

O05 口頭発表

第1日 (9月20日)

14:45 ~ 15:45

法文1号館2階212教室

コミュニケーション

座長 増田 匡裕

- | | | | |
|-------|---|--------------------------|-------------|
| O0501 | 14:45 ~ 15:00
バーテンダーの社会的ネットワークに関する参与観察研究 | ○北 あかり | 東北大学 |
| O0502 | 15:00 ~ 15:15
言語継承とアイデンティティの維持
ー日本在住ウイグル人を中心にー | ○Abudurexiti ABUDULETIFU | モラロジー道德教育財団 |
| O0503 | 15:15 ~ 15:30
大学生はオーディション番組をどう見ているのか
視聴のきっかけから応援行動まで | ○正木 誠子 | 関東学院大学 |
| O0504 | 15:30 ~ 15:45
Q方法論によるパイロット研究のフィードバック場面の会話分析
参加者集団による回答の解釈の間主観性の構築 | ○増田 匡裕 | 和歌山県立医科大学 |

O06 口頭発表

第1日 (9月20日)

14:45 ~ 15:45

法文1号館3階312教室

社会的影響1

座長 秋山 知也

O0601	14:45 ~ 15:00 集団成員性が道德逸脱行為者の非難に及ぼす影響の検討 行為者の意図認知と喚起感情との関連に着目して	○島崎 敦也 品田 瑞穂	中央大学 東京学芸大学
O0602	15:00 ~ 15:15 非難はしないが関わりたくない？ 逸脱的行為者の生い立ち情報が非難感情と社会的距離に与える影響	○武田 拓海 三浦 麻子	大阪大学 大阪大学
O0603	15:15 ~ 15:30 他者からの評価推測が議論場面での意見表明意図に与える影響	○小澤 るの 鈴木 啓太 村本 由紀子	東京大学 東京大学 東京大学
O0604	15:30 ~ 15:45 人々はなぜ「増え始めた少数派」に同調するのか 他者観察のリアルタイム性に着目したフリアアプリ実験	○秋山 知也 亀田 達也	東京大学 明治学院大学

O07 口頭発表

第1日 (9月20日)

14:45 ~ 15:45

法文2号館2階1番大教室

社会的ジレンマ

座長 前田 楓

O0701	14:45 ~ 15:00 将来の相互作用可能性が間接互惠場面での情報探索に及ぼす影響 場面想定法ギビングゲームを用いた検討	○井上 裕香子 清成 透子	安田女子大学 青山学院大学
O0702	15:00 ~ 15:15 間接互惠性における情報伝達の正確性の検討 一話し合いに伴う同調に注目して一	○小野 さくら 川口 舞 水鳥 翔伍 高橋 伸幸	北海道大学 北海道大学 北海道大学 北海道大学
O0703	15:15 ~ 15:30 ネットワーク互惠性における成功者模倣の実験的検討	○高橋 龍 大坪 庸介	東京大学・日本学術振興会 東京大学
O0704	15:30 ~ 15:45 リアルタイム公共財ゲームにおける協力行動と評判メカニズム	○前田 楓 橋本 博文	立教大学 大阪公立大学

O08口頭発表

第1日 (9月20日)

14:45 ~ 15:45

法文2号館2階2番大教室

感情

座長 米谷 充史

O0801	14:45 ~ 15:00 Z世代における母子親密化と「マザコン」の再定義 親子関係の30年変遷	○高橋 真 酒井 崇匡 伊藤 耕太 佐藤 るみこ 加藤 あおい	一橋大学・博報堂生活総合研究所 博報堂生活総合研究所 博報堂生活総合研究所 博報堂生活総合研究所 博報堂生活総合研究所
O0802	15:00 ~ 15:15 援助要請場面における関係性への過剰懸念 —日本と米国の友人ペアデータを用いた検討—	○黄 冠儒 中村 沙椰 Youngjae Cha 内田 由紀子 大石 繁宏	京都大学 大阪公立大学 シカゴ大学 京都大学 シカゴ大学
O0803	15:15 ~ 15:30 「かわいい」体験に対する認知的評価プロセスの特性 Geneva Appraisal Questionnaireを用いた検討	○袁 麗娜 片平 建史	早稲田大学 早稲田大学
O0804	15:30 ~ 15:45 幼少期の戦争関連ストレスに応じた母親の繁殖スケ ジュールが子の繁殖成功度に及ぼす影響	○米谷 充史 大坪 庸介	大和大学 東京大学

O09 口頭発表

第1日 (9月20日)

16:00 ~ 17:15

法文1号館1階113教室

社会的認知

座長 柏原 宗一郎

- | | | | |
|-------|---|------------------|--------------------------|
| O0901 | 16:00 ~ 16:15
脅威認知は男女格差の正当化を左右するか？
システム正当化理論に基づく因果関係の検討 | ○小林 愛佳
竹橋 洋毅 | 東京大学
奈良女子大学 |
| O0902 | 16:15 ~ 16:30
ゼロサム信念の測定とその関連要因の検討
—ゼロサム信念の領域固有性に着目して— | ○篠原 美里
竹橋 洋毅 | 奈良女子大学
奈良女子大学 |
| O0903 | 16:30 ~ 16:45
割引条件が商品の購買意欲に及ぼす効果
—オンラインショッピング利用時の大学生を対象として— | ○梁 恕鳴 | 立命館大学 |
| O0904 | 16:45 ~ 17:00
説得メッセージの処理における受け手の確信度が広告印象に与える影響 | ○大岡 京子
田中 知恵 | 明治学院大学
明治学院大学 |
| O0905 | 17:00 ~ 17:15
Zero-Sum 状況は移民に対する脅威認識を強めるか
実験ゲームと社会選好を考慮した意思決定モデルによる検討 | ○柏原 宗一郎
清水 裕士 | 関西学院大学・日本学術振興会
関西学院大学 |

O10口頭発表

第1日 (9月20日)

16:00 ~ 17:15

法文1号館2階212教室

応用

座長 大貫 真友子

O1001	16:00 ~ 16:15 組織文化のブライトサイドが組織への心理的つながりに与える影響	○吉原 克枝 池田 浩 三角 孝太郎 出石 琴美	福岡工業大学短期大学部 九州大学 九州大学 ユトレヒト大学
O1002	16:15 ~ 16:30 共働き子育て世帯の労働者におけるリカバリー経験—計量テキスト分析を用いた探索的検討—	○宮川 えりか 吉田 夏月 林田 航輝	国際基督教大学 国際基督教大学 国際基督教大学
O1003	16:30 ~ 16:45 暗黙理論が大学生の英語学習における困難への反応に及ぼす効果—知能観と英語力観に着目して—	○柳瀬 真紀 竹橋 洋毅	奈良女子大学 奈良女子大学
O1004	16:45 ~ 17:00 大学生のTikTok利用が社会的寛容性に与える影響	○万 静怡 古谷 嘉一郎	関西大学 関西大学
O1005	17:00 ~ 17:15 カンボジアにおける障害者との接触と信頼・支援行動 直接接触と拡張接触の効果	○大貫 真友子 高崎 善人 小暮 克夫	早稲田大学 東京大学 会津大学

O11口頭発表

第1日(9月20日)

16:00～17:00

法文1号館3階312教室

対人関係

座長 阿部 晋吾

- | | | | |
|-------|---|--------------------------|----------------------|
| O1101 | 16:00～16:15
思春期における一般的信頼と関係流動性の関連の検討
関係流動性と世代の交互作用効果 | ○前田 友吾
高岸 治人
松田 哲也 | 玉川大学
玉川大学
玉川大学 |
| O1102 | 16:15～16:30
「親しい友人」扱いは好意の過少推定を抑制する | ○志澤 翔太郎
川上 直秋 | 筑波大学
筑波大学 |
| O1103 | 16:30～16:45
既読無視への不安を規定する心理的特性の検討
自己概念およびLINE認知に基づく潜在プロフィール分析 | ○黄 雪琴 | 名古屋大学 |
| O1104 | 16:45～17:00
子ども・親・教師間における叱りの評価尺度の再構築
多母集団同時分析による検証 | ○阿部 晋吾 | 関西大学 |

O12口頭発表

第1日 (9月20日)

16:00 ~ 17:00

法文2号館2階1番大教室

モデリング

座長 中田 星矢

O1201	16:00 ~ 16:15 全員一致規則と確信度が生み出す話し合いの集合知	○竹西 海人 竹澤 正哲	北海道大学 北海道大学
O1202	16:15 ~ 16:30 態度の学習モデルと言語報告可能性 — 態度学習の計算論モデル —	○清水 裕士 柏原 宗一郎	関西学院大学 関西学院大学
O1203	16:30 ~ 16:45 問題と情報源についての二重の不確実性下での社会 学習	○森 隆太郎 金 恵璘 亀田 達也	東京大学・日本学術振興会 東京大学・JST さきがけ 明治学院大学
O1204	16:45 ~ 17:00 色系列の学習と伝達を通じた階層構造の創発 異年齢ペア実験による検討	○中田 星矢 長井 志江	東京大学 東京大学

O13口頭発表

第1日 (9月20日)

16:00 ~ 17:00

法文2号館2階2番大教室

文化

座長 竹村 幸祐

- | | | | |
|-------|---|--|--|
| O1301 | 16:00 ~ 16:15
ウズベキスタンの若者における幸福観の形成過程と共有信念の役割
—都市と地方の比較分析から— | ○土居 海斗 | 東京大学 |
| O1302 | 16:15 ~ 16:30
集団主義的文化圏に有効な改訂版MCIIの開発と効果検証
個人目標の遂行を対象として | ○原田 知佳
尾崎 由佳
竹橋 洋毅
後藤 崇志
榊原 良太 | 名城大学
東洋大学
奈良女子大学
大阪大学
昭和女子大学 |
| O1303 | 16:30 ~ 16:45
セルフディスタンシングが促す合理的判断における文化的影響
道徳ジレンマ課題を用いた米中比較研究 | ○崔 邱好
石井 敬子 | 名古屋大学
名古屋大学 |
| O1304 | 16:45 ~ 17:00
歴史の中のWEIRD文化
Google Booksに見る個人主義・促進焦点・ルーズネス | ○竹村 幸祐
仲間 大輔 | 滋賀大学
リクルートマネジメントソリューションズ |

O14口頭発表

第2日 (9月21日) 9:45 ~ 10:45

法文1号館1階113教室

意思決定

座長 黒田 起吏

- | | | | |
|-------|--|---|---|
| O1401 | 9:45 ~ 10:00
等価情報がトレードオフでの選好逆転に及ぼす影響 | ○蘇 智媛
稲増 一憲
金 宰輝 | 東京大学
東京大学
中央大学校 |
| O1402 | 10:00 ~ 10:15
個人の主体的な情報共有による集合知
情報探索課題を用いた検討 | ○菅沼 秀蔵
亀田 達也 | 東京大学
明治学院大学 |
| O1403 | 10:15 ~ 10:30
少額の金銭に対する損失回避はなぜ生じるのか
他者からの信頼に対する期待が与える影響の精査 | ○長谷 和久
毛 新華
清水 寛之 | 山口大学
神戸学院大学
神戸学院大学 |
| O1404 | 10:30 ~ 10:45
速さと正確さのトレードオフにおけるペアの社会情報処理 | ○黒田 起吏

Alan Tump

Ralf Kurvers | Max Planck Institute for Human
Development・日本学術振興会
Max Planck Institute for Human
Development
Max Planck Institute for Human
Development |

O15口頭発表

第2日 (9月21日) 9:45 ~ 10:45

法文1号館2階212教室

政治

座長 岡田 陽介

O1501	9:45 ~ 10:00 2024年衆院選における投票参加要因の分析 政治関心、政治知識及び政治的有効性感覚について	○長濱 憲	東京大学
O1502	10:00 ~ 10:15 認知的熟慮性が異なる意見を持つ他者への対話志向 性に及ぼす効果 —原子力発電の利用に対する信念に着目した研究—	○保毛 陽斗 前田 楓 福楽 彩純 山 祐嗣 橋本 博文	大阪公立大学 立教大学 大阪市立大学 大阪公立大学 大阪公立大学
O1503	10:15 ~ 10:30 政治忌避意識尺度の開発	○岡田 葦生 稲増 一憲	関西学院大学 東京大学
O1504	10:30 ~ 10:45 有権者における公職選挙法の認知構造 政治家の寄附禁止に対する有権者の認知	○岡田 陽介	拓殖大学

O16口頭発表

第2日 (9月21日) 9:45 ~ 10:45

法文1号館3階312教室

信頼と利他行動

座長 石井 辰典

- | | | | |
|-------|---|-----------------|------------------------------|
| O1601 | 9:45 ~ 10:00
利他行動に対する他者評価の推測
—人数情報と他者の視覚化による影響— | ○原田 瑞穂
五十嵐 祐 | 名古屋大学
名古屋大学 |
| O1602 | 10:00 ~ 10:15
多様な公共財創出における“Hump-shaped”戦略の有用性 | ○大坪 快
森 隆太郎 | 東京大学・日本学術振興会
東京大学・日本学術振興会 |
| O1603 | 10:15 ~ 10:30
一般的信頼の社会差はいかなるメカニズムから生じるか
階層ベイズ認知モデルによる検討 | ○齋藤 悠輔
竹澤 正哲 | 北海道大学
北海道大学 |
| O1604 | 10:30 ~ 10:45
運動同期の向社会的効果：
同期の精度と安定性に注目した検討 | ○石井 辰典
渡邊 克巳 | 日本女子大学
早稲田大学 |

O17口頭発表

第2日 (9月21日)

11:00 ~ 12:00

法文1号館1階113教室

法と心理

座長 相馬 敏彦

O1701	11:00 ~ 11:15 少年院在院者におけるアタッチメントスタイルについて ～被虐待経験をとおして～	○東別府 修二 山本 宏幸	法務省・奈良少年院 法務省・奈良少年院
O1702	11:15 ~ 11:30 ヴァーチャルリアリティを用いた社会的情報処理の予測 的妥当性 —問題行動・いじめ事案を予測基準とした検討—	○吉澤 寛之 松下 光次郎 大隅 尚広 吉田 琢哉 浅野 良輔	岐阜大学 岐阜大学 千葉大学 岐阜聖徳学園大学 久留米大学
O1703	11:30 ~ 11:45 裁判員の量刑判断における視点取得と感情の役割	○花田 捺美 吉岡 歩 土元 翔平 定藤 規弘 福永 雅喜	生理学研究所・総合研究大学院大学 生理学研究所・立命館大学 生理学研究所 生理学研究所・立命館大学 生理学研究所・総合研究大学院大学
O1704	11:45 ~ 12:00 暴力予防における「主張しづらさ」のリアリティ MCIIの応用による訪問看護師の主張行動の促進と阻 害要因の探索	○相馬 敏彦 藤田 愛 福田 大祐 三浦 麻子 小倉 和也 芹澤 のり子 清水 政克 高橋 郁絵 内田 直樹 柳田 千草 三木 明子	広島大学 (医)慈恵会北須磨訪問看護・リハ ビリセンター 福田法律事務所 大阪大学 (医)はちのへファミリークリニック (医)小堤医院 (医)清水メディカルクリニック 原宿カウンセリングセンター (医)すずらん会たろうクリニック (同)Big Smileびっぐすまいる訪問 看護ステーション 関西医科大学

O18口頭発表

第2日 (9月21日) 11:00 ~ 12:00

法文1号館2階212教室

世論

座長 安野 智子

- | | | | |
|-------|---|--------------------------|--------------------------|
| O1801 | 11:00 ~ 11:15
メディア接触と政治的会話が陰謀論的信念に及ぼす効果 | ○岩渕 功
小林 哲郎 | 早稲田大学
早稲田大学 |
| O1802 | 11:15 ~ 11:30
総和最大の志向性と平等性を弁別する効用関数の提案
—現世代・40年後・将来世代の他者への分配の比較から— | ○三木 毬菜
清水 裕士 | 関西学院大学・日本学術振興会
関西学院大学 |
| O1803 | 11:30 ~ 11:45
社会的態度の個人差を説明する概念としての「常民性」の探究 (3)
政策よりも“人柄”か？ 候補者選択基準にみる常民性の影響 | ○三浦 麻子
小林 哲郎
清水 裕士 | 大阪大学
早稲田大学
関西学院大学 |
| O1804 | 11:45 ~ 12:00
ネットにおける政治的発言と政治的知識 | ○安野 智子 | 中央大学 |

O19口頭発表

第2日 (9月21日) 11:00 ~ 12:00

法文1号館3階312教室

社会的影響2

座長 高木 英至

O1901	11:00 ~ 11:15 外集団の存在は多数派同調バイアスを促進するか	○棗田 みな美 横田 晋大 中西 大輔	広島修道大学・日本学術振興会 広島修道大学 広島修道大学
O1902	11:15 ~ 11:30 不平等が成立する条件 ミニナッシュ要求ゲームを用いたシミュレーション研究	○山本 嵩記 中西 大輔	広島修道大学 広島修道大学
O1903	11:30 ~ 11:45 「見かけ上の分断」発生・解消メカニズム 中庸の沈黙効果の検証	○岩田 和也 清水 裕士	関西学院大学 関西学院大学
O1904	11:45 ~ 12:00 緊密な少数派の束は多数派のような影響力を行使できる	○高木 英至	埼玉大学

P01Aポスター発表

第1日(9月20日) 9:30 ~ 11:00

法文1号館2階215教室

在席責任時間 奇数番号: 9:30 ~ 10:15 偶数番号: 10:15 ~ 11:00

P01A01	自己の多元性による類型とコミュニケーション・スキルの関連	○田村 美恵 渡邊 ひなつ 石野 秀明	神戸市外国語大学 豊中市立野田こども園 兵庫教育大学
P01A02	社会的地位と包摂が対人行動に及ぼす影響(2) —安心さがしの対象別の多母集団同時分析—	○長谷川 孝治 古里 由香里 古谷 嘉一郎	駒澤大学 お茶の水女子大学 関西大学
P01A03	心理的耐久性 (Durability) 尺度改訂版の作成 大学での学業遂行と適応を支える心理的特性 (17)	○畑中 美穂 川上 正浩 小城 英子	名城大学 大阪樟蔭女子大学 聖心女子大学
P01A04	新たな自己制御方略尺度作成の試み —快楽的な目標追求の肯定的側面からの検討—	○下田 麻衣 下田 俊介	京都ノートルダム女子大学 東洋大学
P01A05	ズルは明白な不正行為につながるか?	○黒川 優美子 山本 恭子 秋山 学	京都光華女子大学 神戸学院大学 流通科学大学
P01A06	安全性の知覚と自己に対する未来思考の関連	○日道 俊之	高知工科大学
P01A07	セルフコンパッションと好奇心の関係およびポジティブ性の優先への効果に関する検討	○小林 恭子 浦上 萌	椋山女学園大学 椋山女学園大学
P01A08	開示相手との関係性が自発的・応答的自己開示に及ぼす影響	○栗林 克匡	北星学園大学
P01A09	タスクの取り組み順序が自己効力感に与える影響	○安達 未来	大阪電気通信大学
P01A10	自由意志信念が援助行動にもたらす効果 日本・イギリス・アメリカの比較研究	○藤田 太陽 三浦 麻子	大阪大学 大阪大学
P01A11	仮想空間における社会的安全性に関する調査① メタバース依存尺度の開発	○横山 武昌 本間 拓人 小西 直喜 梅谷 凌平 加藤 仁	産業技術総合研究所 産業技術総合研究所 産業技術総合研究所 産業技術総合研究所 北陸学院大学
P01A12	仮想空間における社会的安全性に関する調査② インターネット炎上行為の当事者となるのは誰か?	○梅谷 凌平 小西 直喜 本間 拓人 加藤 仁 三船 恒裕 横山 武昌	産業技術総合研究所 産業技術総合研究所 産業技術総合研究所 北陸学院大学 高知工科大学 産業技術総合研究所
P01A13	社会規範に対する抵抗性は行動を予測するか? 項目反応理論で推定された感受性の妥当性の検討	○尾崎 拓	武庫川女子大学
P01A14	推し活と自己肯定感	○山岡 重行	聖徳大学

ポスター発表 P01A 第1日

P01A15	高齢者のパーソナリティ (Big Five) と風景刺激の注視傾向	○田端 拓哉 丸田 純平 井上 実 綿井 ゆき帆 黒住 日出夫 内田 健太郎	大阪公立大学 大阪公立大学 大阪公立大学 大阪公立大学 大阪公立大学 大阪市立弘済院附属病院
P01A16	Dark Triadと現在の主観的SESがネット荒らしに及ぼす影響	○増井 啓太	追手門学院大学
P01A17	反すうを状況別に測定する尺度作成の試み 罪悪感, 怒り, 恥に着目して	○辻本 有希 竹橋 洋毅	奈良女子大学 奈良女子大学
P01A18	顔画像の呈示が表情フィードバック効果に及ぼす影響	○大津 彩 遠藤 真葵 内藤 遥香 工藤 恵理子	東京女子大学 東京女子大学 東京女子大学 東京女子大学
P01A19	後悔が選択肢探索に及ぼす影響: シミュレーション・実験での検証	○隅田 莉央 菅沼 秀蔵 森 隆太郎 村本 由紀子	東京大学・日本学術振興会 東京大学 東京大学・日本学術振興会 東京大学
P01A20	罪悪感と誇りがinitiatory self-controlに及ぼす影響 経験サンプリング法を用いた検討	○古川 善也	福岡大学
P01A21	慈善行為と商売は両立するか 汚れた利他性効果の追試	○伊藤 忠弘	学習院大学
P01A22	作者のパーソナリティ情報と想像的読解方略が感動に 及ぼす影響	○加藤 樹里 紀ノ定 保礼	金沢工業大学 大阪工業大学
P01A23	羨みと妬みはどう違うのか? 妬みに関する感情語の印象評定	○中井 彩香 渡邊 直美 服部 正嗣 小林 哲生	NTTコミュニケーション科学基礎研究所 NTTコミュニケーション科学基礎研究所 NTTコミュニケーション科学基礎研究所 NTTコミュニケーション科学基礎研究所
P01A24	外集団成員の表情に対する感情乖離 社会的メッセージ推論と処理葛藤の相互作用	○吉池 由佳子 川上 直秋	筑波大学 筑波大学
P01A25	他者の表情と状況の制御要求が即時的対人感情制御 に及ぼす影響	○山本 恭子 木村 昌紀	神戸学院大学 神戸女学院大学

P01Bポスター発表

第1日(9月20日) 9:30 ~ 11:00

法文1号館3階315教室

在席責任時間 奇数番号: 9:30 ~ 10:15 偶数番号: 10:15 ~ 11:00

P01B01	ありがた迷惑な親切に対する反応とその規定因 行為の価値・意図・コストに着目した検討	○白木 優馬	愛知学院大学
P01B02	感謝体験者が恩人を守るための第三者犠牲 「道德の輪」が狭い者ほど犠牲にしやすいのか	○山本 晶友	昭和女子大学
P01B03	「小さな幸せ」と精神的健康 —理想感情の調整効果に着目して—	○奥山 智天 宮本 百合	一橋大学 一橋大学
P01B04	Investigating the relationship between myside bias and cognitive empathy	○Si Thu Khant Emmanuel Manalo	Kyoto University Kyoto University
P01B05	異なる認知バイアス課題による二重過程モデルの精緻 化の試み(1) Thinking and Working Style Scale(TWS)と対応バイアス を用いた検討	○工藤 恵理子 森 津太子 大江 朋子	東京女子大学 放送大学 帝京大学
P01B06	異なる認知バイアス課題による二重過程モデルの精緻 化の試み(2) Thinking and Working Style Scale (TWS) と係留効果 を用いた検討	○森 津太子 工藤 恵理子 大江 朋子	放送大学 東京女子大学 帝京大学
P01B07	異なる認知バイアス課題による二重過程モデルの精緻 化の試み(3) Thinking and Working Style Scale (TWS) と認知的熟 慮課題 (CRT) を用いた検討	○大江 朋子 工藤 恵理子 森 津太子	帝京大学 東京女子大学 放送大学
P01B08	調査参加人数が参加者のメタ非人間化意識に及ぼす 影響	○山田 怜生 五十嵐 祐	名古屋大学 名古屋大学
P01B09	道德判断のゆらぎの神経基盤 Inclusion-Exclusion 課題を用いた検討	○高松 礼奈 上田 竜平 中井 隆介 阿部 修士	愛知学院大学 京都大学 京都大学 京都大学
P01B10	対ロボット公正世界信念と擬人化が、被害者ロボットへ の否定的反応に及ぼす影響	○濱田 龍	東洋大学
P01B11	マインドワンダリングをする人の創造性はどう評価される のか	○伊藤 颯希 河村 悠太	大阪公立大学 大阪公立大学
P01B12	連続する損失と不満足感: 損失決定時のエージェンシー感の違い	○野田 理世 田邊 宏樹 木村 誠人	金城学院大学 名古屋大学 ユニカミノルタ(株)
P01B13	システム依存とシステム正当化 —日本の医療制度を対象とした検討—	○村山 綾 三浦 麻子 北村 英哉	立命館大学 大阪大学 清泉大学
P01B14	家庭と仕事に必要なとされる特性の認知が両立への動機 づけに及ぼす影響 —ロールモデルの提示による検討—	○高林 久美子	東京女子大学

ポスター発表 P01B 第1日

P01B15	コミュニケーション・チェーンにおける感情共有の役割 コミュニケーション相手の集団成員性を操作した検討	○田中 知恵 小森 めぐみ	明治学院大学 東京女子大学
P01B16	新型コロナウイルスの脅威はシステム正当化と関連するか —認識論的動機、関係的動機、実存的動機の媒介効果に関する予備的検討—	○宮島 健	NECソリューションイノベータ(株)
P01B17	援助行動の手段と援助者の道徳性評価における努力 知覚の影響	○松尾 朗子 田中 友理	東京大学先端科学技術研究センター 多摩大学
P01B18	統治の不安が陰謀論の信奉に与える影響	○新井田 恵美 田戸岡 好香 樋口 収	東洋大学 高崎経済大学 明治大学
P01B19	選択式テスト場面における「第一感の信念」に関わる 要因	○村田 光二	成城大学
P01B20	日本人における顔写真に基づく相貌印象と国籍に関わ る判断について AI生成画像を用いた探索的な検討	○金田 宗久 伊藤 君男	愛知学院大学 東海学園大学
P01B21	履歴書評価におけるステレオタイプの影響とメタ認知モ ニタリングの関連	○溝脇 風子 高橋 雄介	京都大学 京都大学
P01B22	童顔は信用されやすいのか？ 恋愛詐欺師と強盗犯の顔における幼形特徴と欺瞞性認 知の関連	○久保田 晶乃	法政大学
P01B23	日本プロ野球における外国人選手名と能力評価の関連 「パワフルプロ野球」の能力値を用いた検討	○榊原 良太	昭和女子大学
P01B24	若年女性の顔立ちとスタイルの評価についての8カ国 比較 平均以下効果と平均以上効果の観点から	○鈴木 公啓 生田 目 光 山宮 裕子 矢澤 美香子 吉澤 裕世 田村 好史	東京未来大学 筑波大学 テンプル大学 武蔵野大学 順天堂大学 順天堂大学
P01B25	“お客様は神様か？”をめぐる国際比較 日韓における消費者特権意識と苦情生起傾向の検討	○池内 裕美	関西大学

P02Aポスター発表

第1日 (9月20日)

15:00 ~ 16:30

法文1号館2階215教室

在席責任時間 奇数番号: 15:00 ~ 15:45 偶数番号: 15:45 ~ 16:30

P02A01	能力比較と意見比較を喚起するテキストベースの SNS 投稿の閲覧が well-being に与える影響の検討	○大塚 勇輝 樋口 匡貴	上智大学 上智大学
P02A02	女性の世代間不公平の知覚が大学入試における女子 枠への賛成度に及ぼす影響	○水口 真希 鈴木 啓太 村本 由紀子	東京大学 東京大学 東京大学
P02A03	ターゲットの性別と優れている領域がターゲットの非人 間化に及ぼす影響 20~30代の男性を参加者とした検討	○朴 建映 李 禕飛 沼崎 誠	東京都立大学 東京都立大学 東京都立大学
P02A04	顕在意識指標と潜在意識指標の両者を用いた他民族 意識形成に関わる因果関係の検証 Explore.Implicit サイトを活用した2つの意識レベル指標 の統合的理解の試み	○潮村 公弘	フェリス女学院大学
P02A05	生産者の顔写真は外国産食品に対する安心感を高め るか	○田戸岡 好香 石井 国雄	高崎経済大学 東京家政大学
P02A06	店員の顔の魅力が購買意欲に及ぼす影響 可愛い店員のオススメ品は魅力的?	○小島 弥生	北陸大学
P02A07	外国の大衆文化に対する好意が外国に対する好意度 に及ぼす影響 ソフトパワーに関する探索的研究	○佐久間 勲	文教大学
P02A08	外国籍居住者に対する偏見の因果関係の検討 知識と態度の2側面からの測定に基づいて	○申 知元 林 和真	神田外語大学 東京都市大学
P02A09	外国人福祉受給者への Deservingness 評価に与える影 響の検討 —行動免疫システムに注目して—	○柿本 航哉 北村 英哉	東洋大学 清泉大学
P02A10	難聴に対する偏見の低減をねらいとしたワークショップ の実践	○勝谷 紀子 佐野 智子	東京大学・放送大学 国際医療福祉大学
P02A11	Culture and Perception: Cultural Variation in Perception in European Canadians, Japanese, and Mongolians.	○Tsolmon Bayart-Od Takahiko Masuda	University of Alberta University of Alberta
P02A12	「子だくさん」の母親に関するステレオタイプ 生活史理論に基づく検証	○塚本 早織 Oliver Sng	愛知学院大学 カリフォルニア大学Irvine校
P02A13	トランスジェンダーに対する印象と偏見の関連の検討	○蟹澤 旭 ターン 有加里ジェシカ	神戸大学 神戸大学
P02A14	エイジズムの対象と方向性 エイジズムを(年上世代/年下世代) × (に対する/ から受ける)と捉え直しての検討	○長谷川 正史 森 津太子	放送大学 放送大学

ポスター発表 P02A 第1日

P02A15	無作為に生じる否定的事象の確率判断に自我関与と事前行為が及ぼす影響 Risen & Gilovich (2008, Study 2) の直接的追試を通して	○藤島 喜嗣	東洋大学
P02A16	脳への介入技術に対する一般市民の認識 心についての機能主義的信念との関連の検討	○谷辺 哲史 太田 紘史	早稲田大学 筑波大学
P02A17	上昇婚は幸せか？ 上昇婚正当化と人生満足感 ジェンダー格差社会の結婚観とシステム正当化の検討	○麻生 奈央子 森永 康子	お茶の水女子大学 広島文教大学
P02A18	潜在連合テスト (IAT) を用いた宗教的信念測定の妥当性の検証	○三樹 彩花 石井 辰典	日本女子大学 日本女子大学
P02A19	生活保護制度への賛意に関する規定因について — 大学生を対象にして —	○石川 星 高良 美樹 江口 昌克	静岡大学 琉球大学 静岡大学
P02A20	健康信念・リテラシーに基づくセグメントに対する情報 提供コンテンツの開発 放射線に関するリテラシー向上の観点から	○平井 啓 山村 麻予 松村 悠子 三浦 麻子 八木 絵香 坪倉 正治 大竹 文雄	大阪大学 関西福祉科学大学 大阪大学 大阪大学 大阪大学 福島県立医科大学 大阪大学
P02A21	メリトクラシーの選好性に関する尺度の作成	○野寺 綾	奈良県立大学
P02A22	ライフヒストリーから探る低所得者の保守政党支持 システム正当化理論の枠組みに基づく検討	○中越 みずき	関西学院大学
P02A23	日本語版道徳基盤ビネット (MFV-J) の作成と妥当性の検討	○須山 巨基 山田 順子 中分 遥	安田女子大学 立正大学 北陸先端科学技術大学院大学
P02A24	日本と地域での領域別不公正感が地域におけるマイクロ不公正感に及ぼす効果	○川嶋 伸佳	神奈川大学

P02Bポスター発表

第1日 (9月20日)

15:00 ~ 16:30

法文1号館3階315教室

在席責任時間 奇数番号: 15:00 ~ 15:45 偶数番号: 15:45 ~ 16:30

P02B01	“名曲ハラスメント”は“ハラスメント”の評価を変えるのか? 評価条件付けを用いた道徳違反語に対する感情価評価変化の検証	○有馬 未来子 後藤 伸彦	一橋大学 一橋大学
P02B02	アカウントの匿名状況から投稿内容の感情を予測できるか? Xへのポストを対象として	○岡本 香 牧尾 美里	高崎健康福祉大学 東京福祉大学
P02B03	フードシェアリングが心理的距離と返報性に与える影響 一つの食べ物の分け合いに注目して	○福田 実奈 棟方 快徒 荒井 萌 和食 麻衣 土屋 瞳	京都外国語大学 森永製菓(株) 森永製菓(株) 森永製菓(株) 森永製菓(株)
P02B04	環境配慮行動に関わる価値観の潜在構造の検討 日本人サンプルにおける因子分析	○長谷川 由弥オリバ 寺垣 穂香 糸井 風音 甲斐田 直子 高橋 舞 大沼 進	北海道大学 北海道大学 筑波大学 筑波大学 奈良女子大学 北海道大学
P02B05	異なる関係流動性下における評判管理戦略	○日下部 春野 結城 雅樹	北海道大学・日本学術振興会 北海道大学
P02B06	自尊心の日米差を支える社会的相互作用メカニズム 関係流動性と称賛・批判の媒介効果の検討	○五十嵐 聡汰 日下部 春野 結城 雅樹	北海道大学 北海道大学・日本学術振興会 北海道大学
P02B07	青年期における孤独感・最小相互作用・精神的健康の相互影響過程 環境変化の有無に着目した縦断データに対する心理ネットワークアプローチの適用	○上田 寛 李 受珉 池田 蓮人 小椋 真呼 中島 健一郎	広島大学・日本学術振興会 広島大学 広島大学 広島大学 広島大学
P02B08	犬の散歩は場所に紐付いた社会関係を生む	○石黒 格	立教大学
P02B09	「愛想の良さ」は自己指向的な共感か他者指向的な共感か	○伊藤 倫	名古屋大学
P02B10	学校種による「学校ロイヤリティ」形成モデルの比較分析 —大学と専門学校の評価モデルの違い—	○古谷 文男 田中 麻紗子 八木 秀泰	応用社会心理学研究所 応用社会心理学研究所 応用社会心理学研究所
P02B11	間接的要求の理解についての規範的反応に対する適切性判断(2)	○平川 真	広島大学
P02B12	解読時の視線パターンと感情解読の正確さとの関連 欧米人が刺激人物であるテストを用いた検討	○志水 勇之進 小川 一美	愛知淑徳大学 愛知淑徳大学
P02B13	心理ゲームが参加者の友人関係に与える影響 —一人狼ゲームは参加者の友人関係を構築・進展させるのか?—	○牧野 幸志	摂南大学

ポスター発表 P02B 第1日

P02B14	チャット会話における文末の三点リーダーが送り手への評価に与える影響(2) —特性形容詞尺度を用いた印象の3次元からの比較—	○酒井 拓人	愛知学院大学
P02B15	デジタルコミュニケーションにおける絵文字の使用適切さと過剰さがメッセージの受信者に与える影響	○神野 雄 川野邊 そよ	西武文理大学 卒業時所属：西武文理大学
P02B16	コミュニケーションスタイルの異なる文化間での嘘をつく際の言語的方略と年齢の関連の比較	○太幡 直也 Aldert Vrij	愛知学院大学 University of Portsmouth
P02B17	「信頼ボタン」の導入がSNS上の誤情報識別に与える影響 Globigら(2023)の再現性検証	○Yuzan He 三浦 麻子	大阪大学 大阪大学
P02B18	なぜ戦いは絆を強めるか？オキシトシンの役割	○汪 明琛 吉村 麻美 井上 美雨 後藤 日奈子 前田 友吾 高岸 治人	玉川大学 玉川大学 Utrecht University 玉川大学 玉川大学 玉川大学
P02B19	共感する相手は同質な他者？異質な他者？ —関係流動性を独立変数、文化的自己観を媒介変数とした媒介分析—	○福島 慎太郎	東京女子大学
P02B20	職場での援助行動の実行と不実行が後悔感情に与える影響	○ゲルゲル クラウディア	お茶の水女子大学
P02B21	向社会的行動と主観的幸福感の関連 援助と分与及びその理由づけに基づく検討	○町田 賢治 武田 美亜 石井 敬子	名古屋大学 青山学院大学 名古屋大学
P02B22	援助者の探求過程 9 援助を受けることの困難さに関する検討	○太田 仁	奈良大学
P02B23	孤独感と援助要請の因果関係 縦断データを用いての検討	○橋本 剛	静岡大学
P02B24	見知らぬ他者への援助行動レパトリーの収集およびリストの作成	○平山 陽菜 村本 由紀子	東京大学 東京大学

P03Aポスター発表

第1日(9月20日) 17:00～18:30

法文1号館2階215教室

在席責任時間 奇数番号: 17:00～17:45 偶数番号: 17:45～18:30

P03A01	極端な利他行動は規範逸脱を予期させるか？	○奈良岡 愛梨 河村 悠太	大阪公立大学 大阪公立大学
P03A02	なぜ性犯罪被害者を責めるのか？ 嫌悪感受性と外集団カテゴリー化が被害者非難に及ぼす 影響の検討	○蜂谷 優友 荒井 崇史	東北大学 東北大学
P03A03	性格の類似性と性格特性の強さが対人魅力に及ぼす 影響	○西浦 真喜子	北陸大学
P03A04	考える力は対人関係を支えるのか クリティカルシンキング能力と学校適応感の関連性の再 検討	○矢澤 順根 中島 健一郎	広島大学・人間総合科学大学 広島大学
P03A05	顔にあらわれる信頼 自然な表情表出と意図的な表情表出が信頼に及ぼす 効果	○小林 右京 前田 楓 谷田 林士 橋本 博文	大阪公立大学 立教大学 大正大学 大阪公立大学
P03A06	討論時の批判的思考態度の現実と理想 ー社会的スキルに着目してー	○石川 真	上越教育大学
P03A07	セルフ・コンパッションによる親密な相手に対する非人 間化の低減	○宮川 裕基 Jia Wei Zhang	追手門学院大学 The University of Memphis
P03A08	小・中学生の反抗的態度が両親の精神的健康に与える 影響 両親が認知する子どもに対する理解困難感を媒介して	○西村 由貴子 中島 健一郎	広島大学・日本学術振興会 広島大学
P03A09	青年期のアタッチメント選好とインターネット依存	○謝 新宇 徐 煜	神戸学院大学 広島大学
P03A10	親密な関係における非人間化されることがIPV被害に 与える影響 ーCLPMモデルを通じたパネルデータの分析ー	○黄 瑶 相馬 敏彦	広島大学 広島大学
P03A11	マッチングアプリ利用者の特徴とイメージ 対人関係において「積極的」か「控えめ」か？	○天野 陽一	東京都立大学
P03A12	呼称の利用促進が対面の関係形成に及ぼす影響 関係形成段階から呼称で呼び合うグループワークの開 発	○谷田 林士	大正大学
P03A13	Dark Triadが反芻思考を介して心理的IPV加害に及ぼ す影響 夫婦関係に関する3波縦断調査による検討	○金政 祐司 宮川 裕基 古村 健太郎	追手門学院大学 追手門学院大学 弘前大学
P03A14	結婚支援イベントにおける自己開示の重要性 イベント満足度およびマッチング成否の予測因に関する 検討	○鬼頭 美江 山田 順子 倉林 千恵子 山口 貴大 松波 和希	明治学院大学 立正大学 本庄市社会福祉協議会 本庄市社会福祉協議会 本庄市社会福祉協議会

ポスター発表 P03A 第1日

P03A15	中学運動部員の主導的自己表現と自己への気遣いとの関係	○吉村 斉	高知学園大学
P03A16	親のゆとりや知識・技術と子どもの行動の関係	○松原 詩緒 中山 恵	小田原短期大学 東京立正短期大学
P03A17	親アイデンティティが育児感情を介して子による夫婦関係の脅威に及ぼす影響 —夫婦のペアデータを用いた検討—	○山下 倫実 加藤 陽子 石田 有理	十文字学園女子大学 十文字学園女子大学 十文字学園女子大学
P03A18	職場での恋愛に対する態度とその関連要因の検討	○小野 由莉花	京都橘大学
P03A19	「押し」への支出における「押し」志向的動機と自己志向的動機 支出の際の幸福感及び対人関係における目標との関連	○宮崎 弦太	学習院大学
P03A20	結婚支援イベントにおけるマッチング公開は有用か？ 結婚支援イベントにおける異性とのマッチング結果公開に対する評価の社会間比較	○山田 順子 鬼頭 美江	立正大学 明治学院大学
P03A21	「子育てチーム」認知範囲の夫婦間影響過程の検討 —夫婦ペアパネルデータを用いた検討—	○西村 太志 湯藤 魁 津村 夏菜 古谷 嘉一郎 相馬 敏彦	広島国際大学 広島国際大学 広島国際大学 関西大学 広島大学
P03A22	ペットとの関わりは文化的離反を超えて精神的健康を支えるか	○子安 ひかり 小笠原 さくら 菊水 健史 村井 俊哉 西田 淳志 永澤 美保	麻布大学 麻布大学 麻布大学 京都大学 東京都医学総合研究所 麻布大学
P03A23	学歴による高齢期の社会関係格差 出生コホート・男女別分析	○小林 江里香 原田 謙 竹内 真純 杉澤 秀博	東京都健康長寿医療センター研究所 実践女子大学 東京都健康長寿医療センター研究所 桜美林大学
P03A24	The Balance Between Risks and Resources Scale 日本語版の検討	○古谷 嘉一郎 山崎 茜	関西大学 広島大学

P03Bポスター発表

第1日 (9月20日)

17:00 ~ 18:30

法文1号館3階315教室

在席責任時間 奇数番号: 17:00 ~ 17:45 偶数番号: 17:45 ~ 18:30

P03B01	個人・地域レベルの関係流動性と社会的孤立・孤独との関連	○浦 光博	追手門学院大学
P03B02	ソーシャルサポートが育児ストレスに与える影響に関する日中比較 日本人と在日中国人を対象とした質問調査を基に	○林 萍萍 宍戸 邦章	大阪商業大学 大阪商業大学
P03B03	若年女性における「売春」経験の有無と家族・友人によるソーシャルサポートの関連	○木村 映里 高 史明 荻上 チキ	東洋大学 東洋大学 (一社) 社会調査支援機構チキラボ
P03B04	青年期における夜間・社会恐怖とぬいぐるみとのインタラクションの関係に関する分析	○土方 嘉徳 藤元 愛梨 宮本 恵真	兵庫県立大学・関西学院大学 兵庫県立大学 関西学院大学
P03B05	ゆるせない体験をした者の傷つきと反実仮想	○小浜 駿 沼田 真美	宇都宮共和大学 目白大学
P03B06	傷つき関連認知がゆるしを介して心理的距離に与える影響	○沼田 真美 小浜 駿	目白大学 宇都宮共和大学
P03B07	アウトサイダー感覚に代表される疎外感は孤独感と分離できるのか アイデンティティ融合尺度と新たな尺度に基づく探索的検討	○森下 丈 中分 遥	北陸先端科学技術大学院大学 北陸先端科学技術大学院大学
P03B08	Dark Triadの高いリーダーはなぜ選ばれるのか？ 社会的支配志向性と自己関連性の影響	○吉田 綾乃 阿部 史佳	東北福祉大学 石巻市役所
P03B09	大学教員のストレス反応 職階の違いに注目して	○稲垣 勉 河越 隼人 渡邊 ひとみ	京都外国語大学 帝塚山大学 高知大学
P03B10	孤独感が入眠困難に及ぼす影響 中頻度縦断データを用いた検討	○池田 蓮人 李 受珉 上田 寛 小椋 真呼 中島 健一郎	広島大学 広島大学 広島大学 広島大学 広島大学
P03B11	家族・親子間で「おそろい」を楽しむ理由とその効果 (1) —リンクコーデの経験有無による家族関係の満足感の比較—	○市村 美帆 新井 洋輔	和洋女子大学 神戸医療未来大学
P03B12	家族・親子間で「おそろい」を楽しむ理由とその効果 (2) —リンクコーデに対する評価尺度の構造の検討—	○新井 洋輔 市村 美帆	神戸医療未来大学 和洋女子大学
P03B13	集団を形成する要素のクラスター分析 6つの集団に着目して	○小林 智之 吉田 和樹	関西学院大学 医療創生大学

ポスター発表 P03B 第1日

P03B14	集団意思決定における心理的安全性と発言行動の関係 —意見の多数派，少数派に着目して—	○近藤 真佳 児玉 真樹子	九州大学 広島大学
P03B15	心理的安全性の低さが支える規範維持 有給休暇取得を題材とした検討	○岩谷 舟真 正木 郁太郎 今城 志保 村本 由紀子	関西学院大学 東京女子大学 リクルートマネジメントソリューションズ 東京大学
P03B16	集団形成における包摂の境界領域と新参者の役割変容 化学反応ゲームを用いた検討	○杉浦 淳吉 鈴木 清史 レンツ フランツ	慶應義塾大学 静岡大学 ライプニッツ大学ハノーファー
P03B17	メディア利用と日本人意識 (13) 2024 パリオリンピック評価と日本人・コスモポリタニズム意識	○山下 玲子 有馬 明恵	東京経済大学 東京女子大学
P03B18	メディア利用と日本人意識 (14) 2024 年パリオリンピック観戦者のチームID とファンコミュニティID に焦点を当てて	○有馬 明恵 山下 玲子	東京女子大学 東京経済大学
P03B19	出生に伴う母親の所属集団の増減と実行機能の関係	○後藤 伸彦 波多野 文	一橋大学 (株)イデアラボ
P03B20	移民に対する社会的価値志向性 社会的割引モデルによる発展的検討	○王 偉宇 柏原 宗一郎 清水 裕士	関西学院大学 関西学院大学 関西学院大学
P03B21	間接互惠状況で「評判が良い人にあえて利他的に振舞わない者」への評価	○小野田 竜一	大東文化大学
P03B22	協力のパートナー選択に伴うコストの測定 山岸(1998)における取引コスト尺度の作成の試み	○新井 さくら	東京大学・日本学術振興会
P03B23	相手の所属集団が協力行動や互酬性の期待に与える影響 1 回限りの順序つき四人のジレンマゲームと最小条件集団パラダイムを用いた検討	○永延 佳那子 前田 楓 谷田 林士 橋本 博文	大阪公立大学 立教大学 大正大学 大阪公立大学
P03B24	社会的不確実性が向社会行動の個人差に与える影響	○後藤 日奈子 後藤 晶 高岸 治人	玉川大学・日本学術振興会 明治大学 玉川大学

P04A ポスター発表

第2日 (9月21日)

10:00 ~ 11:30

法文1号館2階215教室

在席責任時間 奇数番号: 10:00 ~ 10:45 偶数番号: 10:45 ~ 11:30

P04A01	繰り返し型社会的ジレンマゲームにおける協力の持続 Driving Game 経験を基盤とした意思決定モデルの構築	○成田 達樹 水野 景子 井上 裕香子 清成 透子	青山学院大学 東北大学 安田女子大学 青山学院大学
P04A02	規範の共有は罰のクラウドディング・アウト現象を乗り越えられるか	○稲葉 美里	近畿大学
P04A03	社会的ジレンマ状況における確率的意思決定モデルの構築	○星野 匠映 水野 景子 清水 裕士	関西学院大学 東北大学 関西学院大学
P04A04	「目」の提示及び感謝メッセージの提示が迷惑行為と利他行動に及ぼす影響の検討	○真島 理恵 清藤 美翔	札幌大学 札幌市南区役所
P04A05	「見つめる目」が利己的行動の抑制に及ぼす影響 —The Difference Spotting Taskを用いた検討	○吉本 睦未 伴野 彩 石井 辰典	日本女子大学 川崎市南部児童相談所 日本女子大学
P04A06	社会関係が選択可能な状況での協力行動の学習シミュレーション	○上島 淳史	慶應義塾大学
P04A07	本当に災害は人を協力的にするのか	○小西 直喜 梅谷 凌平 本間 拓人 後藤 晶 横山 武昌	産業技術総合研究所 産業技術総合研究所 産業技術総合研究所 明治大学 産業技術総合研究所
P04A08	大学生アスリート版フォロワーシップ尺度の開発とその特徴	○松原 旭飛 高井 秀明	日本体育大学 日本体育大学
P04A09	評判懸念は援助行動を抑制するか Kawamura & Kusumi (2018) の直接的追試	○清野 幸歩 石井 辰典	日本女子大学 日本女子大学
P04A10	テーマパークでの迷惑行為に関する研究 —11年前のデータとの比較—	○北折 充隆 吉武 久美	金城学院大学 人間環境大学
P04A11	寄付を求められるとき他者の寄付から目を背けるか?	○三石 宏大 河村 悠太	大阪公立大学 大阪公立大学
P04A12	利他行動における逆同調 ボランティア参加における多数派から少数派への選択 変更のメカニズム	○杜 佳霖 三浦 麻子	大阪大学 大阪大学
P04A13	ユーモア刺激と集団討議パフォーマンスとの関連 大学生を対象としたNASA問題を用いた実験研究	○植村 善太郎	福岡教育大学

ポスター発表 P04A 第2日

P04A14	負担配分の公平さが当事者性の高い人々の議論に与える影響の検討 除去土壌福島県外処理問題を題材とした集団討議実験	○相馬 ゆめ 柴田 侑秀 崔 青林 中澤 高師 辰巳 智行 有馬 淑子 大沼 進	北海道大学・日本学術振興会 北海道大学 北海道大学 東洋大学 豊橋創造大学短期大学部 京都先端科学大学 北海道大学
P04A15	嫌いな人にも寛容になれる？ —「寛容さの不承認—尊重モデル」(Simon, 2023)の日本での追試結果—	○萩谷 遥平 三浦 麻子	大阪大学 大阪大学
P04A16	人口動態変化が外国人労働者への態度に及ぼす影響 —集団間脅威の媒介効果と社会的支配志向性等の社会信念の調整効果—	○森泉 哲	南山大学
P04A17	i-deals適用範囲が従業員の公正感と就業継続意図に与える影響	○角心 理枝子 坂田 桐子	広島大学 広島大学
P04A18	職場で道徳不活性化が非倫理的向組織行動、関係性攻撃に及ぼす影響について	○大西 彩子 北居 明	甲南大学 甲南大学
P04A19	組織文化の因子構造に関する研究 組織文化のダークサイド・ブライツサイドの観点から	○三角 孝太朗 池田 浩 吉原 克枝 出石 琴美	九州大学 九州大学 福岡工業大学短期大学部 ユトレヒト大学
P04A20	Deep-Level Diversityが職場のパフォーマンス要因に与える影響に関するシステマティック・レビュー	○小澤 佳澄 樋口 匡貴	上智大学 上智大学
P04A21	関係流動性と相互監視の提案促進環境への影響 日本の職場における調査	○中村 沙椰 内田 由紀子	大阪公立大学 京都大学
P04A22	個人とみんなの心理的安全性はどちらが大事か 異なる視点からの回答を用いた探索的検討	○今城 志保 藤村 直子	リクルートマネジメントソリューションズ リクルートマネジメントソリューションズ
P04A23	i-dealsの希望は妬みを通じて自己向上を促すか？ —同僚の獲得可能性が導く良性妬みとその後の反応—	○張 梓源 相馬 敏彦	広島大学 広島大学
P04A24	4種類の危機とリーダーシップの評価	○小久保 みどり	立命館大学

P04B ポスター発表

第2日 (9月21日) 10:00 ~ 11:30

法文1号館3階315教室

在席責任時間 奇数番号: 10:00 ~ 10:45 偶数番号: 10:45 ~ 11:30

P04B01	掲示物に鏡を付けると通行人にメッセージは届くか？ キャンパス内での行動観察による検討	○山崎 真理子 青山 謙二郎	鹿児島大学 同志社大学
P04B02	ドライバーを対象とした睡眠改善プログラムにおける参加者の行動量と成果の関連	○丹野 宏昭	WizWe 習慣化研究所
P04B03	産業場面におけるメンター制度・研修制度がワーク・エンゲイジメントと組織内自尊感情に与える影響	○足立 邦子 山村 麻予 小田桐 良一	園田学園大学 関西福祉科学大学 園田学園大学
P04B04	推し活へのコミットメントを測定する尺度の開発 その2 —基準関連妥当性と構成概念妥当性の検討—	○福井 義一 中谷 智美	甲南大学 名古屋産業大学
P04B05	The Manipulation of Relational Mobility	○朱 一鳴 結城 雅樹	北海道大学 北海道大学
P04B06	能動的情報探索とバイアス形成のメカニズム ウェブ検索を通じた態度変容の探索的分析	○鈴木 貴久	津田塾大学
P04B07	視覚障害理解を促進する日本産業規格 (JIS) 活用の効果 アクセシブルサービス規格を用いた検討	○森川 美和	明星大学
P04B08	場面別ながらスマホ育児が幼児の社会性に及ぼす影響 3波パネル調査によるアタッチメントの媒介効果の検討	○松尾 由美	江戸川大学
P04B09	SNS における金銭的報酬が意見表明に与える影響	○下川 詩乃 岩田 和也 清水 裕士	関西学院大学 関西学院大学 関西学院大学
P04B10	日本における X (Twitter) 利用と政治的イデオロギーの関連 2024 年 1 月における利用経験と利用継続	○高 史明	東洋大学
P04B11	送り手から見た自然災害報道のヴィジュアルフレーミング —インタビュー調査による探索的分析—	○川端 美樹	目白大学
P04B12	マンガ・アニメの及ぼす影響に関する心理学的研究	○野村 卓志	東京経済大学
P04B13	日本における「メディア不信」の構造 シニシズムを軸としたオーディエンスの態度分析	○日下部 聡 三浦 麻子	大阪大学 大阪大学
P04B14	年間リスニングレポートの使用体験がブランド忠誠度に与える影響 ブランド体験を媒介とした影響メカニズムの検討	○張 楽昕	東京経済大学
P04B15	金融に関する意識による分類と ICT 利用行動の特徴	○小島 誠也 水野 一成 桑津 浩太郎 廣瀬 通孝	NTTドコモ NTTドコモ 立命館大学 東京大学
P04B16	消費者の行動的経験とコミュニケーション・スキル	○泉水 清志	埼玉工業大学

ポスター発表 P04B 第2日

P04B17	女子大生の自己愛と「押し」への貢献	○齊藤 理瑛子	東京女子大学
P04B18	日本における長期的な政治信頼構造と政治参加の関係 2005年-2019年のJESデータを用いた二次分析研究	○大西 健太 稲葉 哲郎	一橋大学 一橋大学
P04B19	社会心理学にもとづく政策立案への人々の態度 —エビデンス呈示の効果の検討—	○橋本 剛明 工藤 泰幸 唐沢 かおり	東洋大学 東京大学 東京大学
P04B20	ソーシャルメディア上の対中好意的言説に関わるアカウントの分類と特徴	○小林 哲郎 吉田 光男 鈴木 貴久 周 源	早稲田大学 筑波大学 津田塾大学 神戸大学
P04B21	中国の対日ツイッター外交におけるトピックの分析	○廖 宇慧 小林 哲郎	早稲田大学 早稲田大学
P04B22	Beyond the Political Moderate and Midpoint Response Bias: Contrasting Japan's Bi-conceptualism with the American Ideological Structure	○Cleone Mitsui Yuta Kawamura	Osaka Metropolitan University・ Japan Society for the Promotion of Science Osaka Metropolitan University
P04B23	若者の心理的エンパワメント・ニーズに関する探索的 検討 子どもと関わる仕事に従事している者への調査から	○高橋 尚也	立正大学
P04B24	親子の政治的会話と子の政治的社会化の関連の学校 段階間比較 —大規模調査データを二次利用した多母集団 RI- CLPMによる探索的検討—	○廣瀬 周作 中島 健一郎	広島大学 広島大学

P05Aポスター発表

第2日 (9月21日)

14:30 ~ 16:00

法文1号館2階215教室

在席責任時間 奇数番号: 14:30 ~ 15:15 偶数番号: 15:15 ~ 16:00

P05A01	内受容感覚と注意および自己概念の明確さとの関連 日本人を対象とした検討	○田中 里奈 松川 恵大 柴田 浩史 大平 英樹 石井 敬子	名古屋大学・日本学術振興会 名古屋大学 名古屋大学 名古屋大学 名古屋大学
P05A02	ポジティブ感情変動の日米比較 経験サンプリング調査による検討	○中西 柚香 Danfei Hu Maya Tamir Lisya Kaspi Yulia Chentsova-Dutton 奥山 智天 宮本 百合	一橋大学 The Hebrew University of Jerusalem The Hebrew University of Jerusalem The Hebrew University of Jerusalem Georgetown University 一橋大学 一橋大学
P05A03	知識獲得コミュニケーションの阻害要因の検討 他者の期待についての推論と評価懸念に着目して	○塩田 滉介 鈴木 啓太 村本 由紀子	東京大学 東京大学 東京大学
P05A04	ソーシャル・サポートがウェルビーイングに及ぼす影響 日本・台湾・英国・米国の国際分析	○Igor de Almeida 田中 康寛 内田 由紀子	京都大学 コクヨ(株) 京都大学
P05A05	Cultural Tightness and Well-Being Across Cultures: The Moderating Role of Regulatory Focus in Japan and the U.S.	○Yan Li Yukiko Uchida	Kyoto University Kyoto University
P05A06	引越し経験は参入先のデフォルト戦略の採用を加速する	○小宮 あすか 足立 紗輝 坂田 桐子	広島大学 広島大学 広島大学
P05A07	文化的自己観尺度のための係留寸描項目の作成 大学生への予備調査	○田崎 勝也	青山学院大学
P05A08	日米中における「先輩後輩」関係の比較研究 上下関係意識と組織運営への示唆	○田中 皓介 高山 健太 川端 祐一郎 浜崎 洋介 藤井 聡	京都大学 京都大学 京都大学 京都大学 京都大学
P05A09	特性語を用いた作動性・共同性尺度の再検討 多因子モデルと性格特性の枠組みとの連続性	○苫米地 飛 馬目 蓉子 清水 佑輔 唐沢 かおり	東京大学 元東京大学 成城大学 東京大学
P05A10	日本に戻ってくる人々 海外帰還移民の帰還理由と適応	○加藤 潤三 前村 奈央佳	立命館大学 神戸市外国語大学
P05A11	ニュージーランド移住者の移住動機についての事例研究 日本社会から避難し新たな暮らしを始めること	○前村 奈央佳 加藤 潤三	神戸市外国語大学 立命館大学
P05A12	宗教性の類似度が他者への信頼度に与える影響	○北村 勇也 山本 健太郎	九州大学 九州大学

ポスター発表 P05A 第2日

P05A13	日本人の「みえない宗教性」を探る 自然言語処理を用いた「Crush!」に対するソーシャル メディア上の反応分析	○恒松 杏 小宮 あすか 高野 了太	名古屋大学 広島大学 名古屋大学
P05A14	孤独感を低減させる大学の取り組み調査	○戸谷 彰宏 李 受珉 神原 広平 清水 陽香 謝 新宇 池田 蓮人 張 清源 安部 主晃 阿部 夏希 重松 潤 早瀬 良 杉浦 仁美 阿部 修士 中井 隆介 柳澤 邦昭 中島 健一郎	広島大学 広島大学 同志社大学 西九州大学短期大学部 神戸学院大学 広島大学 元広島大学 広島大学 長野大学 富山大学 中部大学 近畿大学 京都大学 京都大学 神戸大学 広島大学
P05A15	社会的比較における同化と対比プロセスが主観的感情 に及ぼす影響 SNS投稿による他者提示法を用いた検討 (2)	○大久保 暢俊	東洋大学
P05A16	潜在プロフィール分析を用いた孤独感の変化に関する 考察 —戸谷他 (2024) の縦断データを用いて—	○李 受珉 池田 蓮人 上田 寛 小椋 真呼 中島 健一郎	広島大学 広島大学 広島大学 広島大学 広島大学
P05A17	二時点データを用いた孤独感と孤独を好む志向性の関 連の検証	○豊島 彩	島根大学
P05A18	情報通信技術の高度化における視覚障害者の「生活 の質」の変化 食生活に着目して	○間々田 理彦	愛媛大学
P05A19	性別および性的指向による自己モノ化の差異 異性愛者男性・非異性愛者男性・女性の比較分析	○Alexander Navarro 森川 華帆 高井 次郎	名古屋大学 名古屋大学 名古屋大学
P05A20	性役割態度の規定因に関する研究 ～思春期の家庭環境に焦点を当てて～	○武藤 麻美	阪南大学
P05A21	好意的性差別が若者の人生満足度に及ぼす影響 システム正当化及びジェンダー・システム正当化の媒 介効果の検討	○高橋 彩	津市立三重短期大学
P05A22	Powerless感とジェンダーシステム正当化 夫の収入との差は現状肯定によって癒やされるのか	○森永 康子 福留 広大 清末 有紀 平川 真	広島文教大学 聖カタリナ大学 植草学園大学 広島大学
P05A23	日本における「不安定な男性らしさ理論」の適用可能 性 —理論的前提の確認—	○川島 千佳 沼崎 誠	東京都立大学 東京都立大学
P05A24	対人関係における性的モノ化の測定に向けた尺度項目 の探索 自由記述データの内容分析から	○森川 華帆 高井 次郎	名古屋大学 名古屋大学

P05Bポスター発表

第2日 (9月21日)

14:30 ~ 16:00

法文1号館3階315教室

在席責任時間 奇数番号: 14:30 ~ 15:15 偶数番号: 15:15 ~ 16:00

P05B01	日本のウェルビーイング指標の特徴 ー地方自治体および研究機関の関心ー	○工藤 泰幸 清水 佑輔 福山 秀平 苔米地 飛 唐沢 かおり	東京大学 成城大学 元東京大学 東京大学 東京大学
P05B02	都市空間での well-being を巡る心理・環境要因のネットワーク分析	○打田 篤彦 渥美 圭佑 増本 康平 谷口 隆晴 原田 和弘 近藤 徳彦	神戸大学 (株)バイオーム 神戸大学 神戸大学 神戸大学 神戸大学
P05B03	時間的距離が旅行計画に与える影響 解釈レベル理論にもとづく観光動機の反映過程	○岡本 卓也	信州大学
P05B04	中高年・シニア層の情報通信技術不安とネット利用との関係 パネル調査データによる因果関係の検討	○北村 智	東京経済大学
P05B05	高齢者は日常生活の分からないことを誰に尋ねているか 高齢者の日常学習と社会的ネットワークの関連性に関する基礎的検討	○津村 健太 森 玲奈 生島 美和	帝京大学 帝京大学 帝京大学
P05B06	捜査面接における質問種類が回答者の認知的負荷に及ぼす影響 二重課題法を用いた検討	○古橋 健悟 横田 賀英子 大塚 祐輔 平間 一樹 渡邊 和美	科学警察研究所 科学警察研究所 科学警察研究所 科学警察研究所 科学警察研究所
P05B07	再犯の背景情報と援助規範意識が刑事施設出所者に対する支援的態度に及ぼす影響	○板山 昂	関西国際大学
P05B08	いじめ傍観行動における多元的無知 (6) ー交差遅延効果モデルによる検証ー	○有倉 巳幸 稲垣 勉 神山 貴弥	鹿児島大学 京都外国語大学 同志社大学
P05B09	チープな協力意図シグナルの進化ダイナミックス 数理解析とシミュレーションによる検討	○渡邊 裕季乃 大槻 久 河村 悠太 大坪 庸介	東京大学 総合研究大学院大学 大阪公立大学 東京大学
P05B10	自然との一体感が環境配慮行動に与える探索的検討 さまざまな自然物とのアイデンティティ融合に着目して	○馬 久嵐 中分 遥	北陸先端科学技術大学院大学 北陸先端科学技術大学院大学
P05B11	自然に対する価値認識と伝統的な世界観の関連	○館石 和香葉 中分 遥 藤井 修平 柴崎 祥太 中臺 亮介	北海道武蔵女子大学 北陸先端科学技術大学院大学 國學院大学 同志社大学 横浜国立大学

ポスター発表 P05B 第2日

P05B12	自然動物への態度に影響を与える要因の探索的検討 アーバンベアに対する保護および排除に関する心理的 基盤を探る	○永井 洋子 瀧川 諒子 中分 遥	北陸先端科学技術大学院大学 北陸先端科学技術大学院大学 北陸先端科学技術大学院大学
P05B13	Why Positive Goal Framing Works Better? The Mediation Role of Tone and Quality Perception in Green Product Purchases	○Boxuan Song Shinsuke Suzuki Shaofeng Zheng Nobuhiko Goto	Hitotsubashi University Hitotsubashi University Hitotsubashi University Hitotsubashi University
P05B14	環境問題の重要性に関する判断基準 二次元イメージ展開法の評価理由のテキスト分析から	○園田 美保	鹿児島女子短期大学
P05B15	名古屋市民はプラスチック一括収集制度をどう評価した のか	○前田 洋枝	南山大学
P05B16	監視提示と環境美化によるごみのポイ捨て抑制効果の 検討 —大学構内における介入実験—	○中俣 友子	尚絅学院大学
P05B17	街中でのスマートフォン利用に対する意識 大学生を対象として	○元吉 忠寛	関西大学
P05B18	「集まる場所」と最小相互作用 都道府県レベルの社会生態学的指標と最小相互作用 との関連	○平島 太郎	愛知淑徳大学
P05B19	都市部における若中年層の地域活動参加意向を高め るナッジ —オンライン調査によるエビデンス—	○植竹 香織 村山 洋史	ポリシーナッジデザイン(同)・奈良 女子大学 東京都健康長寿医療センター研究所
P05B20	Social Networking Addiction Scale 日本語版の開発 —基準関連妥当性と構成概念妥当性の検討—	○中谷 智美 福井 義一 堀 孝司	名古屋産業大学 甲南大学 甲南大学
P05B21	自尊感情の下位側面と状態自尊感情の変動との関連 大学生の学業失敗場面に着目した検討	○平川 航太朗 中島 健一郎 西口 雄基	広島大学 広島大学 千葉大学
P05B22	教師間の相互コンサルテーションにおける児童理解と 学級経営省察のための尺度に関する予備調査	○弓削 洋子 中川 明	愛知教育大学 名古屋市教育委員会
P05B23	課題価値と文章作成方略および批判的思考との関連 —初年次学生のアカデミックライティングに関する授業 への課題価値と期待に着目して—	○松本 明日香	東海学院大学
P05B24	日常生活における他者操作に関連する諸概念間の比 較(2): クラスター分析による類型化	○木川 智美	名古屋産業大学

発表者索引

(太字は責任発表者)

A		あ		井上 美雨	P02B18
Abuduletifu, Abudurexiti		青山 謙二郎	P04B01	井上 実	P01A15
P0502		秋元 涼之介	O0403	井上 裕香子	O0701 P04A01
B		秋山 知也	O0604	今城 志保	P03B15 P04A22
Bayart-Od, Tsolmon		秋山 学	P01A05	岩田 和也	O1903 P04B09
P02A11		浅野 良輔	O1702	岩谷 舟真	P03B15
C		麻生 奈央子	P02A17	岩瀬 功	O1801
Cha, Youngjae	O0802	足立 邦子	P04B03	上島 淳史	P04A06
Chentsova-Dutton, Yulia		足立 紗輝	P05A06	上田 皐介	O0401
P05A02		安達 未来	P01A09	上田 寛	P02B07 P03B10
D		渥美 圭佑	P05B02		P05A16
de Almeida, Igor		安部 主晃	P05A14	上田 竜平	P01B09
P05A04		阿部 晋吾	WS09 O1104	植竹 香織	P05B19
G		阿部 夏希	P05A14	植村 善太郎	P04A13
Goto, Nobuhiko		阿部 修士	P01B09 P05A14	打田 篤彦	P05B02
P05B13		阿部 史佳	P03B08	内田 健太郎	P01A15
H		天野 陽一	P03A11	内田 直樹	O1704
He, Yuzan	P02B17	新井 さくら	P03B22	内田 由紀子	SY01 O0104 O0802
Hu, Danfei	P05A02	荒井 崇史	P03A02		P04A21 P05A04
J		荒井 萌	P02B03	梅谷 凌平	P01A11 P01A12
Jentschke, Sebastian		新井 洋輔	P03B11 P03B12		P04A07
WS01		有馬 明恵	P03B17 P03B18	浦 光博	P03B01
K		有馬 未来子	P02B01	浦上 萌	P01A07
Kaspi, Lisya	P05A02	有馬 淑子	P04A14	え	
Kawamura, Yuta	P04B22	安藤 香織	WS08	江口 昌克	P02A19
Khant, Si Thu	P01B04	い		袁 麗娜	O0803
Kim, Nahyun	O0301	李 受珉	P02B07 P03B10	遠藤 真葵	P01A18
Kurvers, Ralf	O1404		P05A14 P05A16	お	
L		五十嵐 聡汰	P02B06	王 偉宇	P03B20
Li, Yan	P05A05	五十嵐 祐	O0305 O1601 P01B08	汪 明琛	P02B18
M		池内 裕美	P01B25	大石 繁宏	O0802
Manalo, Emmanuel		池田 謙一	WS04	大江 朋子	WS12 P01B05 P01B06
P01B04		池田 浩	O1001 P04A19		P01B07
Masuda, Takahiko		池田 蓮人	P02B07 P03B10	大岡 京子	O0904
P02A11			P05A14 P05A16	大久保 暢俊	P05A15
Mitsui, Cleone	P04B22	井桁 由貴	O0103 O0304	大隅 尚広	O1702
N		石井 国雄	O0205 P02A05	大藺 博記	WS02
Navarro, Alexander		石井 敬子	WS07 O1303 P02B21	太田 紘史	P02A16
P05A19			P05A01	太田 仁	P02B22
S		石井 辰典	O1604 P02A18	大高 瑞郁	O0103 O0304
Sahab, Sofia	WS08	石川 星	P04A05 P04A09	大竹 文雄	P02A20
Sng, Oliver	P02A12	石川 真	P02A19	大津 彩	P01A18
Song, Boxuan	P05B13	石黒 格	P03A06	大塚 勇輝	P02A01
Suzuki, Shinsuke		石田 有理	P02B08	大塚 祐輔	P05B06
P05B13		石野 秀明	P03A17	大槻 久	P05B09
T		石原 昌	P01A01		O1602
Tamir, Maya	P05A02	板山 昂	O0101	大坪 快	O0703 O0804 P05B09
Tsolmon, Bayart-Od		市村 美帆	P05B07	大坪 庸介	P04A18
WS11		出石 琴美	P03B11 P03B12	大西 彩子	P04B18
Tump, Alan	O1404	糸井 風音	O1001 P04A19	大西 健太	O1005
U		伊藤 君男	P02B04	大貫 真友子	WS08 P02B04 P04A14
Uchida, Yukiko	P05A05	伊藤 耕太	P01B20	大沼 進	P05A01
V		伊藤 颯希	O0801	大平 英樹	WS04
Vrij, Aldert	P02B16	伊藤 忠弘	P01B11	大森 翔子	P03A22
Z		伊藤 倫	P01A21	小笠原 さくら	O1503
Zhang, Jia Wei	P03A07	伊藤 勉	P02B09	岡田 葦生	O1504
Zheng, Shaofeng	WS07 P05B13	稲垣 勉	P03B09 P05B08	岡田 陽介	P02B02
		稲葉 哲郎	P04B18	岡本 香	P05B03
		稲葉 美里	P04A02	岡本 卓也	P02B12
		稲増 一憲	O0102 O1401 O1503	小川 一美	

小川 充洋 WS12
 荻上 チキ P03B03
 荻原 祐二 O0403
 奥山 智天 **P01B03** P05A02
 小倉 和也 O1704
 尾崎 拓 **P01A13**
 尾崎 由佳 WS06 O0402 O1302
 小澤 佳澄 **P04A20**
 生島 美和 P05B05
 小田桐 良一 P04B03
 小野 さくら **O0702**
 小野 由莉花 **P03A18**
 小野田 竜一 **P03B21**
 か
 甲斐田 直子 P02B04
 柿本 航哉 **P02A09**
 角心 理枝子 **P04A17**
 柏原 宗一郎 **O0905** O1202 P03B20
 片桐 恵子 **O0301**
 片平 建史 O0803
 勝谷 紀子 **P02A10**
 加藤 あおい O0801
 加藤 陽子 P03A17
 加藤 樹里 **P01A22**
 加藤 潤三 **P05A10** P05A11
 加藤 仁 P01A11 P01A12
 蟹澤 旭 **P02A13**
 金田 宗久 **P01B20**
 金政 祐司 **P03A13**
 亀田 達也 O0604 O1203 O1402
 唐沢 かおり SY01 O0102 O0103
 O0304 P04B19 P05A09
 P05B01
 川上 直秋 O1102 P01A24
 川上 正浩 P01A03
 川口 舞 O0702
 河越 隼人 P03B09
 川島 千佳 **P05A23**
 川嶋 伸佳 **P02A24**
 川野邊 そよ P02B15
 川端 美樹 **P04B11**
 川端 祐一郎 P05A08
 河村 悠太 P01B11 P03A01
 P04A11 P05B09
 WS05
 川本 哲也 **P02B15**
 神野 雄 P05A14
 神原 広平
 き
 木川 智美 **P05B24**
 菊水 健史 P03A22
 菊谷 まり子 WS03
 北 あかり **O0501**
 北居 明 P04A18
 北折 充隆 **P04A10**
 北村 智 **P05B04**
 北村 英哉 P01B13 P02A09
 北村 勇也 **P05A12**
 鬼頭 美江 **P03A14** P03A20
 紀ノ定 保礼 P01A22
 金 宰輝 O1401

金 恵璘 O1203
 木村 映里 **P03B03**
 木村 誠人 P01B12
 木村 昌紀 P01A25
 清末 有紀 P05A22
 清成 透子 O0701 P04A01
 清野 幸歩 **P04A09**
 く
 日下部 聡 **P04B13**
 日下部 春野 WS11 **P02B05** P02B06
 工藤 恵理子 P01A18 **P01B05**
 P01B06 P01B07
 O0103 O0304 P04B19
P05B01
 久保田 晶乃 **P01B22**
 倉林 千恵子 P03A14
 栗林 克匡 **P01A08**
 黒川 優美子 **P01A05**
 黒住 日出夫 P01A15
 黒田 起吏 **O1404**
 桑津 浩太郎 P04B15
 け
 ゲルゲル クラウディア **P02B20**
 こ
 黄 雪琴 **O1103**
 黄 瑤 **P03A10**
 神山 貴弥 P05B08
 小久保 みどり **P04A24**
 小暮 克夫 O1005
 小澤 るの **O0603**
 小島 誠也 **P04B15**
 小島 弥生 **P02A06**
 小城 英子 P01A03
 児玉 真樹子 P03B14
 後藤 晶 WS08 P03B24 P04A07
 後藤 崇志 O1302
 後藤 伸彦 P02B01 **P03B19**
 後藤 日奈子 P02B18 **P03B24**
 小西 直喜 P01A11 P01A12
P04A07
 小浜 駿 **P03B05** P03B06
 小林 愛佳 O0402 **O0901**
 小林 右京 **P03A05**
 小林 江里香 O0303 **P03A23**
 小林 恭子 **P01A07**
 小林 哲生 P01A23
 小林 哲郎 WS04 O1801 O1803
P04B20 P04B21
 小林 智之 **P03B13**
 小桝 真呼 P02B07 P03B10
 P05A16
 小宮 あすか **P05A06** P05A13
 古村 健太郎 P03A13
 米谷 充史 **O0804**
 小森 めぐみ P01B15
 子安 ひかり **P03A22**
 近藤 勢津子 O0302
 近藤 徳彦 P05B02
 近藤 真佳 **P03B14**

さ
 崔 邱好 **O1303**
 崔 青林 P04A14
 齋藤 悠輔 **O1603**
 齊藤 理瑛子 **P04B17**
 酒井 崇匡 O0801
 酒井 拓人 **P02B14**
 榊原 良太 WS02 O1302 **P01B23**
 坂田 桐子 P04A17 P05A06
 佐久間 勲 **P02A07**
 笹原 和俊 WS04
 定藤 規弘 O1703
 佐藤 みちる WS10 **O0102**
 佐藤 るみこ O0801
 佐野 智子 P02A10
 し
 塩田 滉介 **P05A03**
 塩谷 尚正 **O0201** O0202
 潮村 公弘 **P02A04**
 敷島 千鶴 WS05
 重松 潤 P05A14
 志澤 翔太郎 **O1102**
 宍戸 邦章 P03B02
 品田 瑞穂 O0601
 篠原 美里 O0402 **O0902**
 柴崎 祥太 P05B11
 芝田 征司 WS01
 柴田 浩史 P05A01
 柴田 侑秀 P04A14
 柴内 康文 WS04
 島崎 敦也 **O0601**
 清水 陽香 P05A14
 清水 裕士 O0905 **O1202** O1802
 O1803 O1903 P03B20
 P04A03 P04B09
 O1403
 清水 寛之 O1704
 清水 政克 **P02B12**
 志水 勇之進 O0103 **O0304** P05A09
 清水 佑輔 P05B01
 下川 詩乃 **P04B09**
 下田 俊介 P01A04
 下田 麻衣 **P01A04**
 下司 忠大 WS05
 謝 新宇 **P03A09** P05A14
 朱 一鳴 **P04B05**
 周 源 P04B20
 徐 煜 P03A09
 白木 優馬 **P01B01**
 申 知元 **P02A08**
 す
 菅沼 秀蔵 **O1402** P01A19
 杉浦 淳吉 **P03B16**
 杉浦 仁美 P05A14
 杉澤 秀博 P03A23
 鈴木 文子 WS09 **O0204**
 鈴木 啓太 O0603 P02A02 P05A03
 鈴木 清史 P03B16
 鈴木 貴久 **P04B06** P04B20
 鈴木 公啓 **P01B24**

発表者索引

砂原 庸介	WS02	田邊 宏樹	P01B12	中山 真孝	O0104
隅田 莉央	P01A19	谷田 林士	P03A05 P03A12	中山 恵	P03A16
須山 巨基	P02A23		P03B23	中分 遥	P02A23 P03B07
せ		谷辺 哲史	P02A16		P05B10 P05B11
清藤 美翔	P04A04	田端 拓哉	P01A15		P05B12
芹澤 のり子	O1704	太幡 直也	P02B16	棗田 みな美	O1901
泉水 清志	P04B16	田村 美恵	P01A01	生田目 光	P01B24
そ		田村 好史	P01B24	奈良岡 愛梨	P03A01
蘇 智媛	O1401	丹野 宏昭	P04B02	成田 達樹	P04A01
相馬 敏彦	O1704 P03A10	ち		縄田 健悟	WS06
	P03A21 P04A23	張 梓源	P04A23	に	
相馬 ゆめ	WS08 P04A14	張 清源	P05A14	新井田 恵美	P01B18
園田 美保	P05B14	張 楽昕	P04B14	新谷 優	WS07
た		つ		西浦 真喜子	P03A03
ターン 有加里ジェシカ	P02A13	塚本 早織	P02A12	西口 雄基	P05B21
大坊 郁夫	WS03	辻本 有希	P01A17	西田 淳志	P03A22
高 史明	O0203 P03B03 P04B10	土元 翔平	O1703	西田 公昭	WS06
高井 次郎	P05A19 P05A24	土屋 瞳	P02B03	西村 太志	P03A21
高井 秀明	P04A08	恒松 杏	P05A13	西村 由貴子	P03A08
高木 英至	O1904	坪井 翔	WS09	ぬ	
高岸 治人	O1101 P02B18 P03B24	坪倉 正治	P02A20	沼崎 誠	P02A03 P05A23
高崎 善人	O1005	津村 夏菜	P03A21	沼田 真美	P03B05 P03B06
高田 剛志	WS12	津村 健太	P05B05	の	
高野 了太	P05A13	て		野田 理世	P01B12
高橋 彩	P05A21	寺垣 穂香	P02B04	野寺 綾	P02A21
高橋 郁絵	O1704	と		野村 卓志	P04B12
高橋 拓真	O0203	杜 佳霖	P04A12	は	
高橋 尚也	P04B23	土居 海斗	O1301	馬 久嵐	P05B10
高橋 伸幸	O0702	苔米地 飛	O0103 O0304 P05A09	萩谷 遥平	P04A15
高橋 舞	P02B04		P05B01	萩原 千晶	WS03
高橋 真	O0801	戸谷 彰宏	P05A14	朴 建映	P02A03
高橋 茉優	WS10	豊沢 純子	WS06 O0404	橋本 剛明	O0103 O0304 P04B19
高橋 雄介	P01B21	豊島 彩	P05A17	橋本 剛	P02B23
高橋 龍	O0703	鳥海 不二夫	WS02	橋本 博文	WS06 O0704 O1502
高林 久美子	P01B14	な			P03A05 P03B23
高松 礼奈	P01B09	内藤 遥香	P01A18	長谷川 孝治	P01A02
高山 健太	P05A08	中井 彩香	P01A23	長谷川 正史	P02A14
高良 美樹	P02A19	中井 隆介	P01B09 P05A14	長谷川 由弥オリバ	P02B04
瀧川 諒子	P05B12	長井 志江	O1204	畑中 美穂	P01A03
竹内 真純	O0303 P03A23	永井 洋子	P05B12	波多野 文	P03B19
竹澤 正哲	O1201 O1603	中川 明	P05B22	蜂谷 優友	P03A02
武田 拓海	O0602	中川 由理	O0201 O0202	服部 正嗣	P01A23
武田 美亜	P02B21	中越 みずき	P02A22	花田 捺美	O1703
竹西 海人	O1201	中澤 高師	P04A14	浜崎 洋介	P05A08
竹橋 洋毅	WS06 O0402 O0404	永澤 美保	P03A22	濱田 龍	P01B10
	O0901 O0902 O1003	中島 健一郎	P02B07 P03A04	林 岳彦	WS10
	O1302 P01A17		P03A08 P03B10	林田 航輝	O1002
竹村 幸祐	WS11 O0104 O1304		P04B24 P05A14	早瀬 良	P05A14
田崎 勝也	P05A07		P05A16 P05B21	原田 和弘	P05B02
田崎 希実	O0402	中田 星矢	O1204	原田 謙	P03A23
辰巳 智行	P04A14	中臺 亮介	P05B11	原田 知佳	O1302
舘石 和香葉	P05B11	中谷 智美	P04B04 P05B20	原田 瑞穂	O1601
田戸岡 好香	O0205 P01B18 P02A05	中西 大輔	O1901 O1902	万 静怡	O1004
田中 皓介	P05A08	中西 柚香	P05A02	伴野 彩	P04A05
田中 辰雄	WS02	永延 佳那子	P03B23	ひ	
田中 知恵	O0904 P01B15	長濱 憲	O1501	東別府 修二	O1701
田中 麻紗子	P02B10	仲間 大輔	O1304	樋口 収	P01B18
田中 康寛	P05A04	中俣 友子	P05B16	樋口 匡貴	P02A01 P04A20
田中 友理	P01B17	中村 沙椰	O0802 P04A21	土方 嘉徳	P03B04
田中 里奈	P05A01	長谷 和久	O1403	日比野 愛子	WS08

日道 俊之	P01A06	松田 哲也	O1101	矢澤 順根	P03A04
平井 啓	P02A20	松波 和希	P03A14	矢澤 美香子	P01B24
平川 航太郎	P05B21	松原 旭飛	P04A08	安野 智子	O1804
平川 真	P02B11 P05A22	松原 詩緒	P03A16	柳澤 邦昭	P05A14
平島 太郎	O0305 P05B18	松村 悠子	P02A20	柳田 千草	O1704
平間 一樹	P05B06	松本 明日香	P05B23	柳瀬 真紀	O1003
平山 陽菜	P02B24	馬目 蓉子	P05A09	山 祐嗣	O1502
廣瀬 周作	P04B24	間々田 理彦	P05A18	山岡 重行	P01A14
廣瀬 通孝	O0101 O0302 P04B15	丸田 純平	P01A15	山形 伸二	WS05 O0401
ふ		み		山口 貴大	P03A14
黄 冠儒	O0802	三浦 麻子	WS02 O0602 O1704	山崎 茜	P03A24
福井 義一	P04B04 P05B20		O1803 P01A10 P01B13	山崎 真理子	P04B01
福島 慎太郎	P02B19		P02A20 P02B17	山下 倫実	P03A17
福田 大祐	O1704		P04A12 P04A15	山下 玲子	P03B17 P03B18
福田 実奈	P02B03		P04B13	山田 順子	P02A23 P03A14
福留 広大	P05A22	三木 明子	O1704		P03A20
福永 雅喜	O1703	三樹 彩花	P02A18	山田 怜生	P01B08
福山 秀平	O0103 O0304 P05B01	三木 毬菜	WS10 O1802	山宮 裕子	P01B24
福楽 彩純	O1502	水鳥 翔伍	O0702	山村 麻予	P02A20 P04B03
藤井 聡	P05A08	水野 一成	O0101 O0302 P04B15	山本 晶友	P01B02
藤井 修平	P05B11	水野 景子	P04A01 P04A03	山本 恭子	P01A05 P01A25
藤井 喜嗣	P02A15	三角 孝太朗	O1001 P04A19	山本 健太郎	P05A12
藤田 愛	O1704	溝脇 風子	P01B21	山本 嵩記	O1902
藤田 太陽	P01A10	三石 宏大	P04A11	山本 宏幸	O1701
藤村 直子	P04A22	水口 真希	P02A02	山脇 岳志	WS04
藤元 愛梨	P03B04	三船 恒裕	P01A12	ゆ	
古川 善也	P01A20	宮川 えりか	O1002	結城 雅樹	WS11 P02B05 P02B06
古里 由香里	P01A02	宮川 裕基	WS07 P03A07 P03A13		P04B05
古谷 嘉一郎	O1004 P01A02 P03A21	宮崎 弦太	P03A19	有倉 巳幸	P05B08
	P03A24	宮島 健	P01B16	弓削 洋子	P05B22
古橋 健悟	P05B06	宮本 恵真	P03B04	湯藤 魁	P03A21
古谷 文男	P02B10	宮本 百合	P01B03 P05A02	よ	
ほ		む		横井 良典	O0105
保毛 陽斗	O1502	向井 有理子	WS09 O0204	横田 賀英子	P05B06
星野 匠映	P04A03	武藤 麻美	P05A20	横田 晋大	O1901
堀 孝司	P05B20	棟方 快徒	P02B03	横山 武昌	P01A11 P01A12
堀毛 一也	WS03	村井 俊哉	P03A22		P04A07
本間 拓人	P01A11 P01A12	村田 光二	P01B19	吉池 由佳子	P01A24
	P04A07	村本 由紀子	WS06 IV01 O0603	吉岡 歩	O1703
ま			P01A19 P02A02	吉澤 寛之	O1702
前田 楓	O0704 O1502 P03A05		P02B24 P03B15	吉澤 裕世	P01B24
	P03B23		P05A03	吉田 綾乃	P03B08
前田 洋枝	P05B15	村山 綾	P01B13	吉田 和樹	P03B13
前田 友吾	O1101 P02B18	村山 洋史	P05B19	吉田 琢哉	O0305 O1702
前村 奈央佳	P05A10 P05A11	も		吉田 夏月	O1002
牧尾 美里	P02B02	毛 新華	O1403	吉田 光男	P04B20
牧野 幸志	P02B13	元吉 忠寛	P05B17	吉武 久美	P04A10
正木 郁太郎	P03B15	森 津太子	P01B05 P01B06	吉原 克枝	O1001 P04A19
正木 誠子	O0503		P01B07 P02A14	吉村 麻美	P02B18
真島 理恵	P04A04	森 隆太郎	O1203 O1602 P01A19	吉村 斉	P03A15
眞嶋 良全	WS01	森 玲奈	P05B05	吉村 有司	SY01
増井 啓太	P01A16	森泉 哲	P04A16	吉本 睦未	P04A05
増田 貴彦	WS11 IV01	森川 華帆	P05A19 P05A24	り	
増田 匡裕	O0504	森川 美和	P04B07	李 禕飛	P02A03
増本 康平	P05B02	森下 丈	P03B07	林 和眞	P02A08
町田 賢治	P02B21	森永 康子	P02A17 P05A22	廖 宇慧	P04B21
松尾 朗子	P01B17	や		梁 怒鳴	O0903
松尾 由美	P04B08	八木 絵香	P02A20	林 萍萍	P03B02
松川 恵大	P05A01	八木 秀泰	P02B10	れ	
松下 光次郎	O1702	谷口 隆晴	P05B02	レンツ フランツ	P03B16

発表者索引

わ

和食	麻衣	P02B03
綿井	ゆき帆	P01A15
渡邊	和美	P05B06
渡邊	克巳	O1604
渡邊	直美	P01A23
渡邊	ひとみ	P03B09
渡邊	ひなつ	P01A01
渡邊	寧	O0104
渡邊	裕季乃	P05B09

日本社会心理学会第 66 回大会 賛助団体 御芳名

【広告・展示】

株式会社誠信書房
株式会社北大路書房
株式会社講談社
株式会社テキスト
株式会社北樹出版
株式会社ちとせプレス
株式会社有斐閣
株式会社創元社
株式会社日本能率協会総合研究所
株式会社ナカニシヤ出版
株式会社サン・エデュケーショナル
アイブリッジ株式会社
株式会社朝倉書店
一般財団法人東京大学出版会
教育情報出版
株式会社クロス・マーケティング

(敬称略, 申込順)

大会を開催するにあたり, 上記各企業・団体より多大なご支援をいただきました。
ここにその御芳名を記して, 心から感謝の意を表します。

2025 年 8 月
日本社会心理学会第 66 回大会準備委員会

JSSP 2025

日本社会心理学会

日本社会心理学会第 66 回大会 準備委員会

委員長	唐沢 かおり
副委員長	村本 由紀子
事務局長	大坪 庸介
委員	稲増 一憲
	鈴木 啓太
	西田 公昭(立正大学)
	尾崎 由佳(東洋大学)
	大高 瑞郁(東洋大学)
	橋本 剛明(東洋大学)
	清水 佑輔(成城大学)

ロゴデザイン 宮本 佳子(追手門学院大学)

日本社会心理学会第 66 回大会プログラム

発行日 2025 年 8 月 20 日
発行者 〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1
東京大学大学院人文社会系研究科
日本社会心理学会第 66 回大会準備委員会